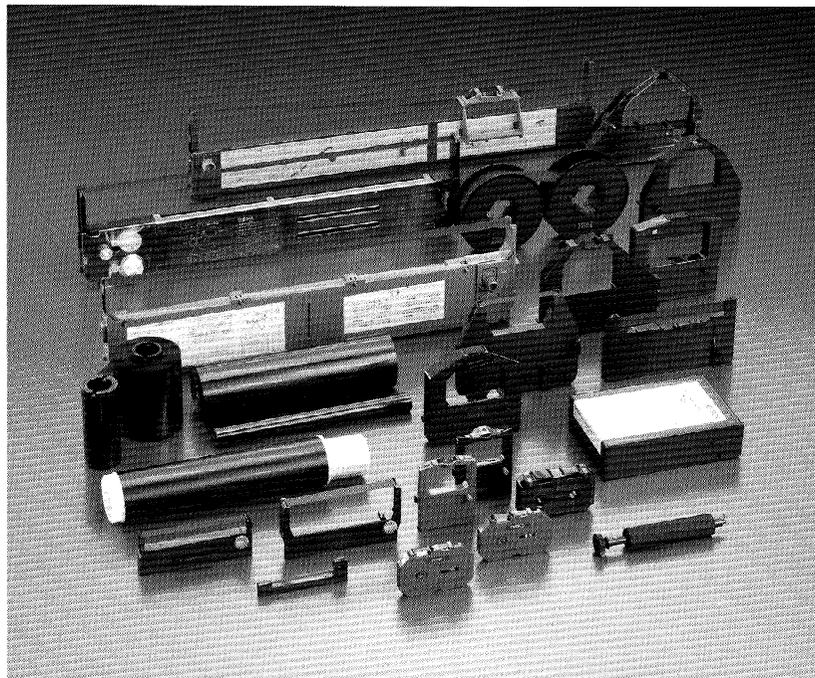


# 貴社の利益倍増計画に協力する 弊社の商品群

**インキ部門**    **フォーム印刷部門**    **コンピューターサプライ部門**



## 内外カーボンインキ株式会社

本社・工場	大阪府高槻市上土室 6-17-1	〒569-1044	電話0726(95)2921(代)
東京支店	東京都千代田区飯田橋 3-11-14	〒102-0072	電話03(3263)2331(代)
福岡営業所	福岡市博多区半道橋 1-5-36	〒812-0897	電話092(472)5731(代)
仙台営業所	仙台市宮城野区高砂 1-24-15	〒983-0014	電話022(254)6021(代)
関東久喜工場	埼玉県久喜市清久町 2-7	〒346-0035	電話0480(23)6363(代)
宇治田原工場	京都府綴喜郡宇治田原町工業団地	〒610-0231	電話07748(8)4711(代)



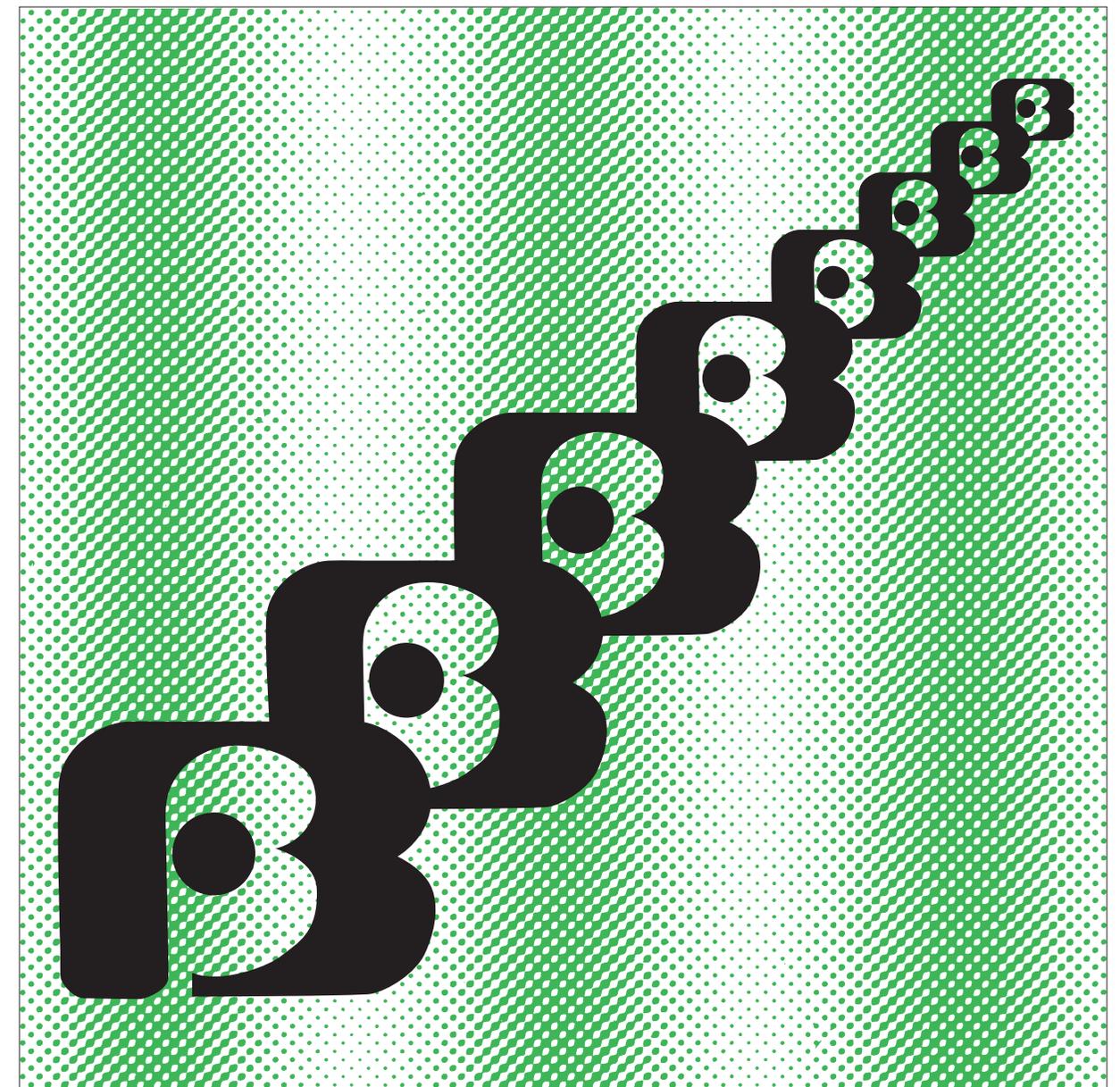
# フォーム印刷

**B JAPAN BUSINESS FORMS ASSOCIATION**

日本フォーム印刷工業連合会会報

発行 日本フォーム印刷工業連合会 〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 日本印刷会館  
TEL 03(3551)8615 FAX 03(3555)8466 ホームページ <http://www.jbfa.jp>

NO. **364・365**



# QuadTech® ビジネスフォーム プレスコントロール

## 損紙削減・生産性効率改善 クォードテックは利益拡大をお約束します。

クォードテックは31年前 米国の印刷工場から始まりました。  
世界86カ国でクォードテックの製品は活躍しています。



Performance Proven  
9,443 MultiCam®  
CAMERAS BUILT,  
AND COUNTING...

マルチカム自動見当装置

IMAGE-BASED  
COLOR CONTROL  
NEW QuadTech AccuCam™

アキュカム カラーコントロール

read more >>

製 | マルチカム 自動見当装置 印刷・加工位置合わせ装置 品質検査装置  
品 | 静止画像装置 カラーコントロール装置 ウェブクリーナー

**QuadTech®**  
Our passion is *your success*.™

クォードテック日本支店  
〒336-0034 埼玉県さいたま市南区内谷3-11-26  
TEL : 048-839-8831 大阪 : 06-6330-0919  
<http://www.quadtech.co.jp>

日本フォーム工連 平成22年度通常総会・理事会を開催	2
日本フォーム工連 平成22年度事業計画	3
日本フォーム工連 平成22年度第2回理事会議事要録	5
日本フォーム工連 平成22年度第4回理事会議事要録	7
日本フォーム工連 平成22年度第5回理事会議事要録	8
トピックス	10
日本印刷産業連合会「2010年9月印刷の月」記念式典 平成22年春の叙勲「福田泰弘元会長」が旭日中綬章を受章 日中ビジネスフォーム印刷業界交流懇談会を中国上海にて開催 業務委員会主催勉強会「『見える化』による業務改善」を開催 講師の坂本善博氏を印刷新聞社がインタビュー 国際委員会主催セミナー「フォーム業界から見た IPEX 2010」を開催 夏季講演会 「映画『降りてゆく生き方』『人をつなげる映画』製作の軌跡」を開催	
工業会だより	20
関東フォーム印刷工業会 平成22年度通常総会	
関東フォーム印刷工業会 夏季懇親会	
東北フォーム印刷工業会 平成22年度定期総会を開催	
東北フォーム印刷工業会 工場施設見学会	
中部フォーム印刷工業会 平成22年度定期総会及び記念講演会	
関西フォーム印刷工業会 平成22年度定期総会・講演会及び懇親会	
九州フォーム印刷工業会 9月度定例会及び勉強会を開催	
INFORMATION	25
国際委員会 北米印刷事情レポート (2010年4月～6月)	
中部フォーム印刷工業会主催「特別講演会」開催案内	
(財)印刷図書館主催文化講演会開催案内	
書籍案内 JAGAT発刊「印刷白書2010」	

## TOYO INK

### 抜群の品質と生産性のフォーム印刷用インキ FD フォームX シリーズ

東洋インキ製造株式会社 RC 事業部  
東京都中央区京橋 2-3-13  
Tel : 03-3272-7693

[www.toyoink.co.jp](http://www.toyoink.co.jp)

- 高い硬化性 UV 硬化性を大幅に向上、高速印刷に対応。
- 広い水幅 水を上げてても良好な印刷適正を実現。
- 優れた転移性 着肉を向上し印刷濃度をアップ。
- 紙面強度の弱い用紙の紙剥け防止タイプもラインナップ。

## 平成22年度通常総会並びに理事会を開催

ホテル銀座ラフィナートで6月8日に平成22年度通常総会を開き、任期満了に伴う役員改選で秋山正法会長に代わって小谷達雄氏が新会長に選任された。

冒頭あいさつで秋山会長は「我が国の景気については、回復基調に入って持続力を示しているとも報じられています。しかしながら、一方、ビジネスフォーム業界は、相変わらずの厳しい状況が続いており、先行きは不透明のままとなっておりますが、我々としては、明るさを失わず、前進してゆきたい」と述べた。



小谷新会長 挨拶

続いて、秋山会長を議長に選任して審議を行ない、第1号議案「平成21年度事業報告並びに収支決算報告承認の件」、第2号議案「平成22年度事業計画案並びに収支予算案承認の件」、第3号議案「任期満了に伴う役員選任の件」を審議し、いずれも満場一致で承認した。

平成22年度業務計画の方針として、業界基盤の整備と体質強化を図り、広く印刷産業全般の総合的發展を図るため、委員会活動を中心として諸施策を実施していく。

主な委員会活動として、業務委員会では、地区工業会との交流を深め、会員増強と活動の活発化を図るため、企業経営に関する講演会・セミナーを年4回以上開催する。また、タイムリーなホームページ掲載、会報の定期発行など広報活動の充実を図る。

資材委員会では、用紙事情調査を継続実施するとともに、資材知識向上のための工場見学会やセミナーを開催する。

国際委員会では、海外フォーム印刷事情を調査・分析するため、5月に開催されるIPEX 2010(英国)を視察するほか、7月には上海印刷展示会の視察および中国BF印刷分会との交流事業を計画している。市場調査委員会では、平成22年度についてもアンケート調査を実施し、市場動向を調査分析し調査報告書を通じて会員へ事業方針策定資料として提供していく。

役員改選では、各工業会から推薦された理事候補者36人、監事候補者2人を承認したのち、第3回理事会を開催し、副会長の小谷達雄氏を新会長に選任した。

退任挨拶で秋山前会長は「2年という短い期間でしたが、経済界・政界ともに激動のなかであって我々の業界も激しい荒波を受け、現在も先行きの明るさが見えず、全く不透明のままです。しかし、この間、皆の支援・ご協力を賜り、なんとか大過なく過ごすことができ、厚く御礼申し上げます。

フォーム工連では会員数の減少など、課題が多いが、小谷新会長には業界のリード役としてご尽力をいただきたい」と感謝の意を表した。

新任あいさつに立った小谷新会長は「大変厳しい経済状況の中、皆様のご協力なしでは伝統あるフォーム工連の活動はしていけないのでご協力をお願い致します」と、活動への理解と協力を呼びかけた。



- 総会議案 第1号議案 平成21年度事業報告並びに収支決算報告承認の件
- 第2号議案 平成22年度事業計画案並びに収支予算案承認の件
- 第3号議案 任期満了に伴う役員改選の件

- 理事会議案 第1号議案 会長選任の件
- 第2号議案 副会長、専務理事、常任理事指名の件
- 第3号議案 委員会委員委嘱の件
- 第4号議案 顧問委嘱の件

## 平成22年度事業計画

業界基盤の整備と体質強化を図り、広く印刷産業全般の総合的發展を図るため、平成22年度は以下の項目を重点的に推進する。

### 1. 日印産連事業活動へ積極的な参画

主要構成員として、日印産連事業活動へ積極的に参画し、企業の社会的責任と印刷産業全般に亘る課題の解決に取り組み、理事会、広報を通じ会員への周知と啓蒙を行なう。

日印産連が主催するセミナー、報告会他各種行事への参加を積極的に進め、知識の共有と交流を図る。

### 2. 委員会活動による課題の討議と諸施策を実施

#### (1) 業務委員会

- ・地区工業会との交流を深め、会員増強、工業会活動活性化の具体策を検討、実施する。
  - 企業経営に関する講演会・セミナーを最低年4回実施する。
  - 地区工業会と協議して講演会及びセミナーを各地区でも開催を計画する。
- ・広報活動の充実を図る。
  - タイムリーなホームページ広報
  - セミナー及び講演会等のオンライン配信
  - プレス（報道機関）懇親会を計画
  - 会報定期発行（4回／年）
- ・業界の重要課題を各委員会と連携して抽出し、工連運営会議での迅速な方向付けを図る。

#### (2) 資材委員会

- ・用紙事情調査を継続実施し、理事会等を通じ資材動向を周知する。
- ・会員会社社員の資材知識向上のため工場見学・セミナー等企画検討する。
- ・諸資材に関する課題検討を進める。
  - インキ及び補助材等に関する勉強会やセミナーを開催

#### (3) 国際委員会

- ・海外フォーム印刷事情を調査、分析し、理事会報告を通じ会員へ周知する。
  - PSDAレポートの継続発信

- 各種海外情報の広報
- ・海外視察ツアーを実施し、会員の研鑽及び海外企業、団体との交流を図る。
  - 5月IPEX2010視察及び企業訪問の実施
  - 7月 中国上海印刷展示会視察及び中国BF印刷分会との交流事業を推進し、中国印刷協会成立30周年記念大会へも参加
  - 海外視察報告会の開催

(4) 市場調査委員会

- ・市場動向を調査分析し、調査報告書等を通じ会員への事業指針を提示する。
  - マーケットを中心としたセミナー及び勉強会の実施
  - 平成21年度実績を反映させたアンケート調査を実施予定
  - 調査結果の分析と報告書の作成
  - 市場における業界共通課題抽出

(5) 技術委員会

- ・技術面から見た業界の進む方向を協議し、必要テーマについてセミナー、見学会等を企画し実施する。
  - 主催及び共催セミナーを実施
  - 業態変革に関わる技術に対してタイムリーな時にタイムリーな内容のセミナーを実施する。
- ・エネルギー削減分野に着目し、新技術情報の共有化を進める。

(6) 公正取引推進委員会

- ・独禁法遵守と啓蒙の為の諸施策を推進する。
  - 各委員会施策、成果物の適法性確認
- ・契約、積算基準の適正化を推進する。
  - 経済調査会等印刷価格調査に協力

(7) 環境委員会

- ・GP工場認定、第三者認証制度の普及啓蒙と認定・認証の取得しやすい環境作り、情報提供を通じ取得支援を行なう。
  - 認証取得支援情報の提供
- ・印刷産業全体で進めるCO<sub>2</sub>削減活動、廃棄物削減活動(地球温暖化対策・循環型社会形成の自主行動計画)を推進する。
  - 日印産連自主行動計画への参加
  - CO<sub>2</sub>削減、廃棄物削減の実態把握と情報共有を図る。

(8) 理事会

- ・業界及び工連運営に関わる重要事項を協議決定する理事会を定期開催し、会報及びホームページ等を通じ会員に周知する。
- ・業界の発展、社会貢献の方向性を探る政治経済動向、社会的責任課題等についての理事研修会を実施する。

日本フォーム印刷工業連合会 平成22年度 第2回理事会議事要録

■平成22年5月13日(木) 午後1時30分～2時45分 日本印刷会館 2階201会議室

■出席者 (25名)

秋山会長、小林副会長、小谷副会長、瀬戸副会長、小谷(正) 常任理事、中村常任理事、福田常任理事、丹羽常任理事、玉田常任理事、岡田常任理事(代理佐々木様)、笹氣常任理事、松尾常任理事、中川常任理事、灘常任理事、和田常任理事、佐々木常任理事、福武理事、石坂理事、坊野理事、佐藤理事、滝本理事、清水理事、西川監事、吉澤監事 山口(専務理事事務局)

議 題 (1) 委員会報告

- (2) 日本印刷産業連合会等関連報告
- (3) 各フォーム印刷工業会からの報告

議 事 冒頭、秋山会長の開会挨拶があり議事に入った。

「秋山会長挨拶骨子」

ギリシャ危機による世界の金融混乱を抑えるために各国が支援に乗り出したことで、当面の不安が和らいだと思われていますが、先行きは不透明なようです。国内では、相変わらず先の見えない不安定な政治状況が続いています。今日の新聞で2010年3月期の企業業績が増益に転じたと報じられていますが、我々の環境は未だ好転の兆しは見えていません。皆さんと着実に前進を図ってゆきたいと思えます。

中国のビジネスフォーム団体である「中国ビジネスフォーム印刷分会」から上海で開催される「印刷総合展示会」と「中国印刷技術協会の30周年記念式典」に合わせて交流会を希望され、訪問視察団を募集致しますのでご参加をお願い致します。

委員会報告

●資材委員会

4月度用紙事情についての報告があった。

●国際委員会

4月度PSDAレポートを報告。



IPEX2010(英国バーミンガム)視察ツアーについての詳細説明。

中国BF印刷分会との交流会、及び上海印刷展示会視察についての詳細報告。

●業務委員会

4月度月次計算についての報告。

●市場調査委員会

BF市場を取り巻く大きな変革について(株)ドリームビジョンの平石社長様からのセミナーについて聴講者からのアンケート結果を報告。

●技術委員会

技術セミナー「ユニバーサル デザインについて」の聴講者からのアンケート結果を報告。

日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

- (1) 平成22年度日本印刷産業連合会表彰推薦について

- (2) 電子書籍に関する対応検討会について
- (3) グリーンプリンティング資機材認定制度について
- (4) 第41回技能五輪国際大会国内選考会の開催について
- (5) 日欧印刷環境フォーラム開催案内

### 各工業会報告

#### 関東工業会報告（瀬戸会長）

お互いの会社の設備を相互利用しようとの事で、太平洋印刷様の工場見学を南支部で実施した。この様な活動がもっと促進すれば良いと思う。今後より会員間の交流を進めるために支部の統合を通常総会で提案したい。

#### 北海道工業会報告（佐藤会長）

北海道が4月28日に総会を開催し新会長に佐藤氏、副会長に西氏が選出され、正会員・特別会員を含めて30社体制を維持している。

#### 東北工業会報告（笹気会長）

8期16年間会長をさせていただいたので、明日の山形での定期総会で新しい会長に引き継ぎを致したい。

#### 中部工業会報告（松尾会長）

中部では5月25日に定期総会と坂本教授をお招きして記念講演会を開催する。講演会には特別会員及び愛知県印刷組合からも参加予定。

#### 関西工業会報告（中川会長）

兵庫、大阪、京滋で支部会を開催した。36

年会長をさせていただきましたが、今期総会で後任にお願い致したいと思っている。

#### 西中国工業会報告（灘会長）

5月21日に総会を行なう。次期役員等については総会で決めたいと思うが、団体加盟会員が少ない中非常に難しい状況にある。

#### 九州工業会報告（和田会長）

九州工業会は来週総会を開催する。正会員のみでは活動がなかなか難しいので、準会員も積極的な参加をいただけるように新しい体制の構築を考えている。

最後に小谷副会長より閉会挨拶があった。

「小林副会長挨拶骨子」

来月は総会になりますので是非全員の理事のご参加をお願い致します。この総会では今後の様々な課題などについて、忌憚なく話し合える場に致します。

今回フォーム業界から福田元会長が叙勲され、各種セミナーや講演会など活発な活動を行っておりますので、皆様で盛りたてていただきたいと思っております。

#### 次回開催日

開催日 平成22年6月8日(火)

時間 午後4時より

場所 銀座ラフィナート7F汐風  
を確認して閉会となった。

## 日本フォーム印刷工業連合会 平成22年度 第4回理事会議事要録

■平成22年7月8日(木) 午後1時30分～2時45分 日本印刷会館 2階201会議室

### ■出席者（18名）

小谷会長、櫻井副会長、瀬戸副会長、小谷(正)常任理事、神崎常任理事、岡田常任理事(代理佐々木様)、佐久間常任理事、松尾常任理事、清水常任理事、灘常任理事、林常任理事、佐々木常任理事、福武理事、石坂理事、坊野理事、西川監事、吉澤監事、浜岡資材委員長代理

### 議 題 (1) 委員会報告

(2) 日本印刷産業連合会等関連報告

(3) 各フォーム印刷工業会からの報告

議 事 冒頭、小谷会長の開会挨拶があり議事に入った。

### 委員会報告

#### ●資材委員会

7月度用紙事情についての報告があった。

#### ●国際委員会

・5月度PSDAレポートを報告

中国BF印刷分会との交流会(7月5日に上海にて実施)についての報告

専務理事の山口が上海にて急病のため、交流会では玉田国際委員長が「日本のビジネスフォーム産業の歩みと展望」について発表した。

・IPEX2010報告会(7月28日に日本印刷会館にて実施)についての案内

タイトルを「フォーム業界から見た IPEX 2010」とし、展示会報告の他、特徴ある訪問企業のCommunis社、政府機関系のBPO(Business Process Outsourcing)を手掛けている英国Fujitsu社の2社について報告する。

#### ●業務委員会

・6月度月次計算についての報告

・見える化による業務改善勉強会(7月17日)開催についての案内

「見える化」の先駆者である(株)資産工学研



究所代表取締役でナレッジプロデューサーの坂本善博氏を講師として「見える化」による業務改善の方法について、実演と印刷業界での適用事例を交えて説明予定。

・夏季講演会講師についての紹介

講師は武田鉄矢主演「降りていく行き方」のプロデューサーであり弁護士の森田貴英氏。メディア・エンタテインメント分野の専門家として、テレビ、ゲーム、映画、音楽、出版、スポーツなどあらゆる分野のビジネスに関わり、この経験を活かし経済産業省や財団法人など政府や公的な機関の委員会や事業にも多数参画されている。

#### ●技術委員会

技術セミナー(10月29日に日本印刷会館にて実施)について

実施内容についてはアンケート要望事項を考慮して技術委員会で協議して決定する。

### 日本印刷産業連合会等関連報告

資料に基づき以下の報告した。

### ビジネスフォーム印刷専用エッチ液

## FCリスコート H-17 BFシリーズ

- |        |   |
|--------|---|
| 特<br>徴 | ☆UV・油性減感インキに適切な乳化特性を付与し、インキの過乳化を制御          |
|        | ☆種々の材料をコーティングしたインクジェット用紙並びに感圧接着紙の使用時にも汚れにくい |
|        | ☆耐水性の低い染料系インキ・減感インキご使用時でも水元ローラー絡みを極力抑制      |



富士薬品工業株式会社  
FUJI CHEMICALS INDUSTRIAL CO.,LTD  
HP URL <http://www.fcfuji.co.jp>

本 社 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北3-14-10  
TEL 03-3557-6201 FAX 03-3557-6205  
大阪営業所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町22-1  
TEL 06-6384-1351 FAX 06-6389-3221

- (1) 「9月印刷の月」PRポスターデザイン募集
- (2) 「デジタルネットワーク社会における出版物の利活用の促進に関する懇談会」
- (3) FAUDI(次世代電子情報利活用推進フォーラムセミナー)  
印刷産業における下請適正取引等の推進のためのガイドライン  
各工業会からの報告の後、瀬戸副会長より

閉会挨拶があった。  
次回開催日  
平成22年度第5回理事会  
開催日 平成22年9月15日(水)  
時間 午後1時30分より  
場所 於：ホテルニューオータニ「椿の間」(宴会場階)  
を確認して閉会となった。

## 日本フォーム印刷工業連合会 平成22年度 第5回理事会議事要録

■平成22年9月15日(水) 午後1時30分～2時40分 ホテルニューオータニ宴会場階「椿の間」  
■出席者(18名)  
小谷会長、櫻井副会長、瀬戸副会長、小谷(正)常任理事、中村常任理事、丹羽常任理事、神崎常任理事、玉田常任理事、岡田常任理事、佐藤常任理事、佐久間常任理事、松尾常任理事、清水常任理事、和田常任理事、林常任理事、佐々木常任理事、石坂理事、山口(専務理事事務局)

- 議 題 (1) 委員会報告  
(2) 日本印刷産業連合会等関連報告  
(3) 各フォーム印刷工業会からの報告

議 事 冒頭、小谷会長の開会挨拶があり議事に入った。

「小谷会長挨拶骨子」

今年の夏は大変な猛暑が続いている。経済面でも円高、株安の影響による景気不安、さらに政治の混乱なども加わって難しい状況を迎えている。このような社会環境ではあるが、お互いに下期に向けて一踏んばり頑張りたいと思う。

本日はこの後、日印産連設立25周年記念行事として「9月印刷の月」講演会と式典が執り行なわれるので、多くの皆様の参加をお願い致したい。

### 委員会報告

#### ●資材委員会

9月度用紙事情についての報告があった。



#### ●国際委員会

- ・6月度PSDAレポートを報告
- ・中国BF印刷分会との交流会、及び上海印刷展示会視察についての詳細報告
- ・主催セミナー「フォーム業界から見たIPEX 2010」についての報告

#### ●業務委員会

- ・8度月次計算についての報告。
- ・見える化による業務改善勉強会についての報告
- ・夏季講演会についての報告

#### ●市場調査委員会

- ・市場調査アンケート実施計画についての報

告と回答の依頼

#### ●技術委員会

- ・技術セミナー(10月29日)開催のご案内

### 日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

- (1) 2010年9月印刷の月記念式典についての説明
- (2) 第9回印刷産業環境優良工場表彰について
- (3) グリーンプリンティング認定工場報告
- (4) GP資機材認定制度スタート時期変更について
- (5) 平成23年度税制改正要望書について
- (6) インキ製品ラベル表示切替について
- (7) デジタルネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会報告 他
- (8) 緊急地震速報訓練への参加要請と参加状況調査

### 各工業会報告

#### 関東工業会報告(瀬戸会長)

持回り理事会の準備を進めているが、他団体との行事が重なってしまっていることもあって、地方工業会からの理事の出席が少ない状況。関東工業会からの参加者等を含めて現在45名が出席。ゴルフ親睦会については34名の参加を予定している。

#### 北海道工業会報告(佐藤会長)

新体制になって初めての行事として8月24日に会員12社から14名の参加をいただき、ゴルフコンペを開催した。年内には研修会等の企画を立て、会員の結束を図って行きたい。

#### 東北工業会報告(佐久間会長)

8月には理事会と納涼会を開催した。来週

は約20名が参加して秋田のミヤコシデジタルシステムズの見学会を予定している。

#### 中部工業会報告(松尾会長)

8月度は休会になっておりますので、来週理事会と受賞のお祝いの会を実施する予定。11月に研修会を実施する。

#### 関西工業会報告(清水会長)

先週理事会を実施し、フォーム工連理事会の報告と各社でのカーボンオフセットについての取り組みを報告した。またプチ勉強会として輸入紙事情について勉強した。7月15日に約70名が参加してビールパーティを実施。

#### 九州工業会報告(和田会長)

九州工業会は明日理事会と「コミュニケーションのスキルアップ術」についての勉強会を実施する。地元企業の正会員が少ないために、準会員の方々に大変ご協力をいただいている。

最後に櫻井副会長より閉会挨拶があった。「櫻井副会長挨拶骨子」

銀行界やアナリストはフォーム業界の今後について大変注視している。リーマンショック直後は広告宣伝や販売促進費が大幅にカットされたが、この時点では事務関連費用の削減までには及んでいなかった。しかし1年後事務経費のカットが進み、今日BF業界も厳しい状況を迎えている。

皆さんと成長戦略を作り、共有して、BF業界全体が発展する事が必要と思う。

本日の日印産連の式典では小林前副会長をはじめ3名の方々が受章されますので皆さんとともにお祝いを致したい。

次 回 平成22年度第6回理事会

開催日 平成22年10月14日(木)

時間 午後3時より

場所 箱根ホテル小涌園 コンベンションパレス「望月」

を確認して閉会となった。

## 日本印刷産業連合会 2010年「9月印刷の月」記念行事開催 印刷功労賞に小林祥浩氏、印刷振興賞に伊藤民康氏、渡辺浩次氏が受賞

(社)日本印刷産業連合会主催の「9月印刷の月」記念式典が9月15日、東京・千代田区のホテルニューオータニ「鶴の間」で開催され、日印産連10団体の会員、来賓、関係者など約700人が出席した。

記念式典は午後4時30分から開催され、主催者を代表して挨拶された猿渡会長は「メディアの多様化、デジタル化がさらに進展する中、印刷産業の培ってきた技術やノウハウが必ず求められ、新しいビジネスモデルの中でも印刷産業には大きな役割が求められていくことを確信している」と、印刷産業界が取り組むべき方向性を述べるとともに、さらなる発展に向けて10団体のより強固な団結を呼びかけた。

来賓祝辞では、石黒憲彦経済産業省商務情報政策局長が「印刷産業界を巡る構造問題は、新たな変革期にきている。ある意味では新しいビジネスモデルを作り出す変革の時である。印刷業界ではデジタルデータを持ち、それらを見せる技術を持っているという意味では中核的な業界だと思う。新しい流れの中で

斜陽産業になるのではなく、むしろその中に求められる技術があり、新しいマーケット、ビジネスモデル、ニッチ市場が次々と誕生してくる気がする。変化をチャンスと捉えて前向きな努力をしてもらいたい」とエールを送った。

このあと、日印産連小谷達雄副会長による「2010年9月印刷の月アピール」を発表、印刷産業のさらなる発展に向けて10団体が一層の結束を図るとともに、力強く事業活動を展開することを表明した。

日印産連表彰では印刷功労賞11名、印刷振興賞18名が受賞を受け、日本フォーム工連からは印刷功労賞に小林祥浩氏、印刷振興賞に伊藤民康氏、渡辺浩次氏の3氏が表彰された。

第9回環境優良工場表彰では、経済産業大臣賞を含めて21社工場が受賞され、日本フォーム工連からは小林クリエイト(株)安城工場が日印産連会長賞を受賞された。

最後に日印産連浅野健副会長の閉会の辞で記念式典を閉幕した。



印刷功労賞 小林祥浩氏(中央)



印刷振興賞 伊藤民康氏、渡辺浩次氏(中央)

### 印刷功労賞



#### 小林 祥浩

日本フォーム印刷工業連合会  
顧問 元副会長  
小林クリエイト株式会社  
取締役 会長

#### (推薦理由)

昭和61年日本フォーム印刷工業連合会理事に就任以来、永年にわたり常任理事、副会長の要職を務め、常に先頭に立って業界の振興発展と地位向上に大きな役割を果たした。  
この間、日印産連事業への理解を深め、理事就任とともに、委員会への委員派遣などを通じて印刷産業全般の課題解決に積極的に取り組み、その活性化に寄与された。

### 印刷振興賞



#### 伊藤 民康

中部フォーム印刷工業会  
理事  
伊藤印刷株式会社  
代表取締役社長

#### (推薦理由)

平成6年より16年2カ月にわたり中部フォーム印刷工業会監事、理事を歴任。この間、愛知県印刷工業組合役員をも併せ歴任し、地域印刷産業の振興、地位向上に寄与された。



#### 渡辺 浩次

関東フォーム印刷工業会  
常任理事  
共同印刷株式会社  
ビジネスメディア事業部  
品質保証部長

#### (推薦理由)

平成15年より事業の傍ら7年3カ月にわたり関東フォーム印刷工業会常任理事を歴任。この間、地域の支部長を併せ歴任し、組織の活性化と業界の振興に尽力された。

## 春の叙勲で福田泰弘氏が旭日中綬章

平成22年春の叙勲・褒章で、経済産業省の推薦により、印刷産業から福田泰弘元日本フォーム印刷工業連合会・元トッパン・フォームズ(株)代表取締役社長が旭日中綬章を受章した。

5月11日午前9時半から東京プリンスホテル2階「鳳凰の間」で勲章の伝達を受け、午後から皇居に参内し、天皇陛下に拝謁した。

福田氏は平成7年にトッパン・フォームズ(株)社長に就任。平成16年から20年まで会長を務めた。平成8年から12年まで日本フォーム工連常任理事、平成12年から16年まで副会長、平成16年から20年まで会長を務められ、個人情報保護法への対応、国際交流の推進など、フォーム印刷業界へ大きく貢献された。



福田泰弘氏ご夫妻

# 「日中ビジネスフォーラム印刷業界交流懇談会」上海にて開催

日本からの参加者：玉田健治氏 中村伸治氏 福田健蔵氏 丸田勝功氏 太田真義氏 村上 哲氏  
山岡政彦氏 半田陽一氏 鈴木純一郎氏 篠田ちゑ氏 林 泉氏

通訳：趙 立力氏 JTB：都築浩子氏

中国印刷技術協会ビジネスフォーラム印刷分会、日本フォーラム印刷工業連合会、中華印刷科学技術学会共同主催の「日中ビジネスフォーラム印刷業界交流懇談会」は2010年7月5日、上海エターナル印務有限公司で開催した。中国印刷技術協会ビジネスフォーラム印刷分会代表団、日本フォーラム印刷工業連合会代表団、中華印刷科学技術学会代表団から計41名が本懇談会に出席した。

中国印刷技術協会ビジネスフォーラム印刷分会常務副理事長・李培芬氏が懇談会の司会をし、各出席者を紹介した後、中国印刷技術協会ビジネスフォーラム印刷分会理事長・邢建民氏がスピーチを行った。

まず本懇談会に出席した日本フォーラム印刷工業連合会代表団と、我が台湾中華印刷科技学会代表団に熱烈な歓迎の意を表した。長年にわたって、ビジネスフォーラム印刷分会は日本同業者の方々と連絡を取り、日中フォーラム印刷業界間の交流と協力が深まることを望んでいた。この度、日本フォーラム印刷工業連合会の専務理事・山口氏のご協力のもとで、本懇談会にご参加していただいた事に対して感謝の意を伝えた。そして邢建民理事長は我が台湾中華印刷科技学会が(台中) 兩岸ビジネスフォーラム印刷業界間の交流活動に対してのたゆまぬ努力にも感謝の意を申し上げた。

挨拶の後、邢建民氏は中国印刷技術協会ビジネスフォーラム印刷分会の歩み、中国フォーラム業界の現状及びその発展について紹介した。

日本フォーラム印刷工業連合会国際委員長・玉田氏は、中国印刷技術協会ビジネスフォーラム印刷分会の今回の招待に感謝の意を伝えた。中国同業者との交流及び協力を重視し、相互訪問を通じて、双方のフォーラム印刷業界の発展について勉強し合いたいと表明された。

その後、玉田氏から日本のフォーラム印刷業のマ



挨拶する玉田国際委員長

ーケット現状及びその将来性についてスピーチをされた。

中華印刷科技学会陳昌郎理事長は、今回の日中ビジネスフォーラム印刷業界交流懇談会を通じて、日中ビジネスフォーラム業界間の交流によって、台湾エリアのビジネスフォーラム印刷ビジネスを促進できることを期待していると挨拶した。その後、中華印刷科学技術学会・黄義盛副理事長から、台湾フォーラム印刷産業の現状及びその発展について話をされた。

また 中国印刷技術協会ビジネスフォーラム印刷分会・程康英副理事長は、中国大陸フォーラム印刷市場の現状についてスピーチを行った。

懇談会終了後、上海エターナル印務有限公司のフォーラム印刷工場とインフォメーション会社を見学した。

午後3時、中国印刷技術協会ビジネスフォーラム印刷分会代表団、日本フォーラム印刷工業連合会代表団、中華印刷科技学会代表団の計41名が「中国印刷技術協会三十周年座談会」に出席した。

この懇談会に先立ち7月4日夜、中国印刷技術協会ビジネスフォーラム印刷分会は「日本フォーラム印刷工業連合会代表団、中華印刷科技学会代表団歓迎晩餐会」を開催した。

中国印刷技術協会・永滄理事長、張双儒常務副

理事長、劉水仙副秘書長が晩餐会に出席し、日本フォーラム印刷工業連合会と中華印刷科技学会代表団全員に面会した。

中国印刷技術協会ビジネスフォーラム印刷分会の鄧正棟、潘中華、丁法、賀政国、付偉、龍建偉などの副理事長と袁海忠、薛克新常務理事及び盧賓秘書長、季棟梁副秘書長は、宴会と7月5日の懇談会にも出席した。

劉建凱、河名(北人富士)及び日中ビジネスフォー



懇親会の模様



歓迎祝賀会の模様

ーム印刷業界の連絡をお手伝いした日本からの友人の木村氏((株)アイマープランニング)も宴会と懇談会に出席した。

「中国印刷技術協会ビジネスフォーラム印刷分会」  
ホームページ翻訳  
<http://www.cbbp.org.cn/index.asp>

写真提供：林泉氏



中国 B F 印刷分科会ホームページ

## 中国印刷技術協会ビジネスフォーラム印刷分会からの贈り物「漆線彫」のご紹介

中国民間芸術の一つで貴重な宝物である漆線彫の歴史は古く、広く全国に名を馳せている。漆線彫芸術は、古くは明末期に福建省南部で現れ発展して、清の康熙時代に成熟期を迎えた。その珍しさ故に高価なものとなり、福建南部一帯では高官、豪商及び大寺院に秘蔵され、富と地位のシンボルとなった。

しかし、その技法は独特で古く、工程も複雑で、尚かつ、その技法は秘伝とされていたため、二十世紀末に、漆線彫の技法は失われる危機に直面していた。近年、多方面に亘る技法保存の努力の甲斐あって、この技法は継承され、発揚された。そして、その独特の芸術風格を以って、上等なものとして認識されるにいたっている。頻りに国賓への贈り物として海を渡り、国のために栄光を勝ち取ってきた。

漆線彫は天然植物などを主な原材料とし、福建省独特の気候を利用し、すべて手作業で作られてい

る。その技法もすべて秘伝である。工程としては条、回、卷、積、彫、掘、刻など10工程があり、各種の精巧かつ凹凸のある模様

が作られる。その表面には純度99%の金箔を貼られ、光沢はいつでも新品同様で色褪せはしない。

漆線彫は中国三大名品の精華の一つを集め、景德鎮陶磁器の雅やかさ、脱胎漆の神韻、北京景泰藍の華やかさを兼ね備えている。

芸術界の花であり、他にないすばらしい技である。

その作品は色艶鮮やかで美しく、形は優美、風格は威厳、一品一品は同じものは作れず唯一となる。



中国 B F 印刷分科会記念品

## 「『見える化』による業務改善」

### ■勉強会

業務委員会と関東フォーム印刷工業会は7月17日、日本印刷会館で「見える化による業務改善勉強会」を開催した。講師は「見える化」の先駆者で(株)資産工学研究所の坂本善博氏。30人あまりが参加し、座学にとどまらず参加型で個人の経験や知恵を付箋用紙と模造紙を使って「見える化」するファシリテーションの演習を通じ、現場力向上に資する貴重な示唆を得た。セミナーの後はカワセコンピュータサプライ(株)が実践した「営業力強化のための『見える化』」の事例の報告を聞いた。

冒頭、瀬戸良教フォーム工連副会長が坂本氏の略歴を紹介し、「今回は実践演習、実際の作業を通じて『見える化』を会得していく。積極的に取り組み、実のある時間としてほしい」と開催意義を述べた。

### 自社の成功法則を創造

坂本氏は初めにナレッジワークスを紹介。読んでいる書籍の中で気付きを得た箇所を抜粋し、分類、原理・原則、解説・例の各項に整理する方法で、気付きを「見える化」することでその書籍を要約でき、中身を深く理解することにつながる。能力向上のステップとは、〈理解〉〈実践〉〈体得〉。〈理解〉はやるべきこととやり方が分かること。〈実践〉は実際にやってみること。それにより〈体得〉すれば自然に身体が動き、人にも教えられるようになる。意識して行うことがポイントである。〈理解〉したまま、放っておいたら身に付かない。

坂本氏はこれまで約500冊の本でナレッジワークスを行った。毎朝、今日やる範囲を計画して家を出ると一日の段取りに違いが出たという。「人間は漫然とではなく、徹底的に反復しないと



講師  
坂本善博氏



瀬戸副会長

身に付かない」(坂本氏)。このノウハウを整理したら会社にも応用できた。それがナレッジファシリテーション、付箋紙に参加者がそれぞれのナレッジを書き込み、模造紙に貼り出し、「見える化」することにより自社の成功法則を創造していく技法であった。

### ナレッジを経営資産に

この時に重要となるのがファシリテーターの存在だ。テーマを投げかけ、表出されたナレッジを整理して切り口別の本質を浮かび上げさせ、深掘し、参加者の現場で培った知恵や情報を短時間で的確に取り出す。そこから企業独自の成功法則を導き出してナレッジブックに編集し、経営資産へ高める役目を果たす。

ナレッジファシリテーションにより会社のベストプラクティスが構築できる。仕事の本質とは時代が変わっても同じ。新しい価値を創造するマインド、形にするスキル、それらによりナ

レッジ(知恵、経験、ノウハウ)は、あつという間に積み重なっていく。ナレッジには、すでに形になって見えている「形式知」(データ、情報、報告書、商品知識、マニュアルなど)と、現れていない深いレベルでの「暗黙知」(コツ、秘訣、センス、イメージ、ひらめきなど)がある。暗黙知を形式知にすることで経営資産に昇華できる。

坂本氏は〈ファシリテーションを、付箋用紙と模造紙によるナレッジの「見える化」プラス編集)であると説明。演習では坂本氏がファシリテーターを務め、①社員をやる気にさせる方法②印刷業界のチャンスと脅威、対応策——について参加者らがそれぞれ考えることを付箋用紙に書き出して、大きな模造紙に貼り、「見える化」した。参加者は、「テーマが違ってても応用できる」「自社でもやってみよう」「手軽にできる」「若い人の意見を聴くには良い方法」などと感想を述べた。

### ノウハウ共有に手応え

この後、カワセコンピュータサプライ(株)経営企画室室長の小泉佳一氏が自社で行った事例を報告した。坂本氏をファシリテーターに招いて7月初め、2週間にわたって「営業力強化のための『見える化』」をテーマに取り組んだもの。長年継承してきた営業のDNAの希薄化を危惧したことがきっかけだった。

小泉氏は「成功事例を『見える化』することで、参加メンバー全員で成功のイメージを共有



小泉佳一氏

することができた。三人寄れば文殊の知恵という。何人もが集まり、文殊の知恵を『見える化』することは、ノウハウの共有として有効な方法と感じた」とファシリテーション実践の手応えを語った。

今後、業績向上につなげるために、①営業各自が現在の「営業力」を認識②PDCAサイクルの実践③さらなるノウハウの蓄積と「見える化」でナレッジブックを更新・改良し、より高度な営業活動を目指すこと——と展望した。

日本印刷新聞社 山成記者



ファシリテーションの様相

### ■インタビュー

#### 講師である(株)資産工学研究所代表取締役の坂本善博氏を印刷新聞社がインタビュー

勉強会に先立ち、講師に迎える「見える化」の先駆者で(株)資産工学研究所代表取締役の坂本善博氏の「ナレッジファシリテーション」とは、どのような経営手法なのか聞いてみた。

——近年、先進企業を中心に「ナレッジマネジメント」という経営手法が導入され、成果を挙げている企業が増えつつあるが、どのような経営手法なのか。

坂本 これは従来の「成果」中心のアプローチに加えて、成果を生み出す「プロセス」に着目し、そこにある社員の知恵や秘訣を「ナレッジ」として「見える化」し、共有・活用することにより、社員の

業務遂行能力を高め、業務の品質や効率、さらには効果を向上させる経営手法である。この背景には、過度なリストラや団塊世代の大量退職などで社内に蓄積されていたノウハウが流出し、企業知(組織知)の空洞化を招いたことが挙げられる。

ナレッジマネジメントは、個人の経験、ノウハウ、秘訣といった「知恵」を集めてナレッジとして明示化し、最適な業務プロセスや業務ポイントとして活用するという面で、従来の経営手法とは大きく異なる。

しかし、ナレッジは企業内外のどこにでも存在しているが、「見えない」「取り出せない」という特性があるため、「見える化」する工夫が必要である。ナレッジマネジメントは、企業のみならず、学会や教育分野でも注目を集めている。しかし、その「概念」や「べき論」を論じるレベルが大半で、かつ「管理ツール」レベルの解決策であり、科学的な手法は依然として開発途上である。

そこで、私はナレッジマネジメントにおける「見える化」の基本技術として、知恵や秘訣の具体的な表現を可能にするために基本技術としての「原理・原則アーキテクチャ」と、見える化のための技法としての「ナレッジファシリテーション」を開発し、啓蒙・普及に努めているところである。

——一般的なナレッジマネジメントとの違いは

**坂本** 「ナレッジファシリテーション」は、ナレッジ保有者からナレッジを表出してナレッジシートに整理・表現するために開発した手法である。表出したいテーマごとに、ナレッジを「見える化」するために、ナレッジ保有者からナレッジファシリテーターがナレッジファシリテーションにより、暗黙知(人間が暗黙のうちに持っている知恵)を表出し「見える化」する技法である。

ツールとしては、模造紙に原理・原則アーキテクチャに対応して、「テーマを緑色」「分類を赤色」「原理・原則を青色」「解説・例を黄色」の4種類の付箋紙を貼り付けて構造的かつ迅速に表出・整理する方法である。この付箋紙の使い分けだけで組織活動や個人行動の大半が表出・表現できるようになっている。

ナレッジファシリテーターは、まず緑色のテ

マを設定し状況・目的・対象を共有する。次に赤色の分類で、テーマの切り口や工程を明確にする。この分類1つずつに対応して、ナレッジ保有者が記述したコツや秘訣といった内容である黄色の付箋紙を収集・整理し、ボトムアップで青色の原理・原則で本質をあぶり出し、さらにトップダウンで黄色を追加し、ナレッジを充実させていく。

——具体的な運用事例を教えてください。

**坂本** 「ナレッジファシリテーション」は、あるテーマについて議論し、メンバーそれぞれの意見を聞き出したい時に使う。いわゆるブレインストーミングを、より体系的に進行するのに適した方法だと思ってもらいたい。「ナレッジファシリテーション」を進行するのが、ナレッジファシリテーターである。参加メンバーは、ナレッジファシリテーターの問いかけに答え、アイデアを付箋紙に書き出していく。ナレッジファシリテーターは出されたアイデアを模造紙などに貼り出し、付箋紙を並び替えて、メンバーの意見を構造化していく。まとまった付箋紙のエッセンスをコンパクトに要約して、付箋紙のグループにタイトルをつける。この作業の繰り返しによって、あるテーマについて系統立ててアイデア出しをし、メンバーの考えをまとめていくことができる。あるテーマについてのナレッジファシリテーションが終わると、アイデアが整理され、模造紙がいっぱいに埋まる。これがメンバーのナレッジの集積であり、企業の資産となる。さらに、関連のある別のテーマについて掘り下げ、同じように付箋紙を貼っていく。ナレッジファシリテーターは付箋紙をそのつど受け止め、関連のあるグループにまとめてダイジェストしていく。

——実際にファシリテーションを体験した人たちの感想は。

**坂本** 「言いたいことが言えて楽しかった」「思ったよりアイデアが出てきて驚いた」「他人と意見交換ができてよかった」など、とにかくアイデア出しをすることで何かが見えてきたというものが多数を占めている。また、単にアイデアを出すだけではなく、その過程でいろいろなことについての「気づき」が促される。ファシリテーターも、参加

メンバーもそれぞれに気づきがある。このような気づきの積み重ねが、自己認識・自社認識を揺り動かす、コミュニケーションスタイルを変え、ひいては組織のパラダイムの自覚や転機にまで結びつく。

——17日の勉強会では、「見える化」による業務改善の事例として、印刷会社の取り組みを紹介するが。  
**坂本** 今回、事前に中堅ビジネスフォーム会社の営業メンバー数人に集まってもらい、「わが社の営業の問題・課題と対応策」について、ナレッジファシリテーションを約2時間行った。最初の1時間で問題点をすべて出してもらい、「問題・課題の見える化」をした。そのあと、解決策をみんなで出し合い、対応例を導き出すことで問題を一つ一つ潰して、プロセスナレッジ(段取りのノウハウ)とパターンナレッジ(状況別ノウハウ)に分けてまとめた。

たとえば、営業が受注できなかった場合、アポ取りがだめだったのか、アポ取りはできたがクロージングで断られたのかでは対応が異なる。「見える化」で問題の解決策を導き出すことによって、自社固有の成功法則化が図れる。

当社もスピード感を重視して、1日8時間のファシリテーションを行った数日後にはナレッジブックを提供している。内容についても皆、誰のナレッジかわかっているため受入れやすく効果が大き

い。極めつけは、この手法を身につけると自社のクライアントにも提供するようになり、信頼関係を深めている。ここまで使いこなせれば最高だろう。

——最後に印刷業界へのアドバイスを。

**坂本** 多様化するクライアントのニーズに1社で応えていくのは無理なので、今後は業界内外の企業とアライアンスを組んでいくことが不可欠となる。今回の勉強会が自社の現状と今後のあるべき姿の「見える化」に取り組みきっかけになれば幸いである。

**講師：坂本善博(さかもと・よしひろ)氏の略歴**  
(株)資産工学研究所代表取締役、ナレッジプロデューサー。1949年生まれ。'68年東京大学経済学部入学。'72年富士通(株)入社。システムエンジニアとしてIT適用指導を担当。商品企画部長として戦略情報システム、オープンシステム、マルチメディア化、パーソナル化の商品化を担当。'94年(株)昭文社専務取締役に就任し、地図のマルチメディア商品を開発。'98年(株)資産工学研究所を設立。「構造型ナレッジマネジメントシステムSKMS」を開発し、「見える化」をキーテクノロジーに、160社を超える企業・機関にナレッジマネジメントコンサルティングを展開中。

日本印刷新聞社 市毛記者取材

## 国際委員会主催セミナー

# 「フォーム業界から見た IPEX 2010」

7月28日、日本印刷会館2階会議室において、「フォーム業界から見たIPEX2010」、英国企業訪問報告および、「ファイルベースによる品質管理と製造管理について」のセミナーを開催した。

国際委員会はIPEX 2010を視察し、また、英国で特徴のあるビジネスフォーム関連企業を訪問。それを踏まえ、今回のセミナーでフォーム業界の視点からIPEX 2010の視察報告を行った。



挨拶をする玉田健治国際委員長

## 「映画『降りてゆく生き方』人をつなげる映画製作の軌跡」

業務委員会では8月26日、目白の椿山荘で夏季懇親会に先立ち、夏季講演会を約90名が参加して弁護士で映画プロデューサーの森田貴英氏を講師に迎え「映画『降りてゆく生き方』人をつなげる映画製作の軌跡」を開催した。

森田氏はBDJ法律会計事務所所属。専門領域は企業法務、エンターテインメント、ファイナンス、ベンチャー育成など。経済産業省、総務省、特許庁、文化庁、(財)デジタルコンテンツ協会など政府、公的機関にて委員を数多く歴任。2004年には東京国際映画祭でプロデューサー育成特別プログラムを企画し、アカデミー賞受賞プロデューサーや内外からトップ映画人を招くなど、国際的に活躍できる人材の育成にも力を注いでいる。

映画『降りてゆく生き方』は、武田鉄矢が扮する金と地位を求める企業戦士が部落を買収にやってきて、金にモノをいわすはずだったが、自然を守ろうとする村人たちと触れ合う中で次第に心の中に変化が生じ、競争第一に生きてきたこれまでのルールから降りる決意をするというストーリーで、人を蹴り散らして生きていくことの虚しさを描いている。

この映画をプロデューサーと脚本を担当した森田氏は、それまではまさに映画の主人公と同様に新自由主義に傾倒して上を求める人生を送っていた。しかし、2005年に団塊世代の大量退職を扱った堺屋太一氏の小説の映画化に携わったことが、森田氏にとって人生の転機となった。森田氏は「2007年問題は1,000万人の定年退職者が、多額の年金を手にして第2の人生を歩みだすことで、エンターテインメント業界にとってもビジネスチャンスだった。堺屋氏の小説は日経新聞等にも連載されていたのでビジネスとして十分勝算はあり、エンターテインメント・ロイヤー、ファイナンス・ロイヤーとして30歳代の集大成としたい」との意気込みで着手した。複数の脚本家に依頼したものの満足のいくものが仕上がらず、結局、森田氏自信



講演会の模様

が手掛けることとなり、実際に地域作りで活躍している200人以上にインタビューを行い、様々なジャンルの本を300冊読破した。そこで「降りてゆく生き方」に気づかされたという。

すでに映画『降りてゆく生き方』を公開してから2年を経過しているが、現在も全国各地で自主上映会が開催されている。商業目的でないため、広告宣伝は一切せず、映画に感動した人が友人にチラシを直接手配りするなど、映画に共感したボランティアの若者が手伝って上映される会場は、人と人とのつながりで満たされ熱気に溢れているという。

最後に森田氏は「今の時代に大切なことは原点に帰って、人と人とのつながりなど失ったものを取り戻すことではないか。複雑化する世の中になり、本当に大切なものが見えなくなっている。余分なものを手放して最後に残ったものに立脚し、歩みを進めることによって色々なものが見えてくる。「降りてゆく生き方」ではビジネスにならないのではと心配されると思うが、千葉の酒蔵では採算を度外視して皆がワクワクする本物の酒を作りたいと、原点に戻ってシャンパン風の日本酒を開発し、若い女性たちの共感を得て大人気。現在、この酒蔵に在庫がない状態で「降りてゆくビジネス」をすることで非常に成功している。金儲けのためでなく、本気で勝負することで消費者に感動を与え、強いつながりが生まれ、ビジネスに展開している」と多くの経験から語った。

## IPEX 2010の所感

従来型のプレスは終焉を迎えるのではないだろうか。ただ、デジタルプレスが中心になるとしても、印刷機としてだけでなく、VDP (Variable Data Printing) プリンターとしての使用も考えられる。ひとつのデジタルプレス機を持つだけでは、多様な製品は作ることができない。しかし、自社の最終的な製品を何に定めるかによって、どの機材を利用するか考えなくてはならないだろう。

また、ポストプレスの多様化への対応も迫られている。デジタルプレスでの効率化、コスト削減、品質、生産性、付加価値の向上と同時に、プリントアプリケーションの多様化を市場は要求している。IPEXで出展された加工機も、まだコンセプトの段階で、未完成なものが多々見受けられた。まだまだこうしたものが今後出てくるだろう。

デジタルプレスのポテンシャルを引き出すのは用紙。デジタルプレスで重要なアイテムが「紙」ということも忘れてはならない。

引き続き英国企業訪問報告が行われ、ともに長期複数年受託契約を結び、発展を遂げているCommunis社と、Fujitsu Service社の2社を紹介。

企業訪問報告終了後は神谷正氏(ピツニーボウズジャパン(株) DMT事業部東日本営業部長)から「ファイルベースによる品質管理と製造管理について」のセミナーが行われた。

日本印刷新聞社 吉澤記者

冒頭、玉田健治国際委員長は「今年のIPEXは例年に比べポジティブな面があったと聞く。とくにデジタルプリントとインクジェットプリントに注目が集まり、そうした部分を中心にセミナーを展開していくので、参考にさせていただきたい」と挨拶をした。

報告を行ったのは、池田政人((株)ビーエフ製造部部长)、原裕一(NTTコムウェア・ビルングソリューション(株)生産本部生産技術担当課長代理)、川本雅之((株)木万屋商会営業部長)、篠原真(太平洋印刷(株)製造部統括部長)、中小路正弘((株)イセト一技術本部本部長)、望月大輝((株)昇寿堂深川工場管理部課長)の6氏。視察報告の要旨は次のとおり。

IPEX 2010ではデジタルプレスの勢いが目立った。従来ある、drupaでコンセプト出展を行い、PRINT、IPEX I、IGASで製品化という流れが加速。機能の追加、マイナーチェンジを行い、来場者の目を引くようにしている。また、それに付随してデジタルプレス製品の加工による、ポストプレスの多様化が見受けられた。

デジタルプレスの視察報告では、コダック、ヒューレットパカード、ゼロックス、impika、リコー、大日本スクリーン製造、オセ、アグファ、XEIKONの展示概要を説明。また デジタルプレスのカットシートについても述べられた。

ポストプレスはHunkeler、Pitney Bowes、CMC、SITMA、Kernなどの展示について報告がされた。



IPEX 2010 セミナーの様子

### 平成22年度通常総会

関東フォーム印刷工業会(瀬戸良教会長)は5月17日、銀座ホテルラフィナートで平成22年度通常総会を開催し、平成21年度事業報告及び収支決算報告、平成22年度事業計画案及び収支予算案が原案通り可決承認された。

事業計画として理事会(年10回)をはじめ、新春・夏季懇親会、各種セミナー及び講演会、春季・秋季ゴルフ親睦会などの開催、日印産連及び日本フォーム工連への役員の派遣を計画している。

また 通常総会終了後に第2回理事会を開催して、任期満了による役員改選では瀬戸良教会長を再選した。

再選された瀬戸会長は就任あいさつで「日本フォーム工連の中核団体として関東フォーム印刷工業会が活発化しないと業界が疲弊してしまう。厳しい経済環境下ではあるが、会員相互の信頼に基づき、お互いの立場を理解し、業界発展のために微力ながら地道に実直に役目を果たしたい」と抱負を述べた。



挨拶する瀬戸会長



通常総会

### 夏季懇親会

関東フォーム印刷工業会(瀬戸良教会長)では8月26日、目白椿山荘で講演会の後に、約150人が参加して夏季懇親会を開催した。

冒頭の挨拶にたった瀬戸会長は「本日の講演会では、日頃厳しい競争で利益を追求している私たちに、忘れていたものを思い起させる大変感動的な話だった。厳しい経営状況が続いているが、考え方を原点に戻していろいろとご歓談いただきながら、秋から年末、年始のピークに向けて十分に英気を養ってもらいたい」と述べた。

続いて、来賓の日本フォーム印刷工業連合会の小谷達雄会長は「6月の総会で秋山会長の後任として選任された。歴代の会長同様にご支援、ご協力をお願いしたい。夏季懇親会には毎年お

招きいただき、関東フォーム工業会の大変元氣な活動を非常にうれしく、頼もしく思っている。大変な世の中だが、皆さんの元氣で日本フォーム工連を引っ張っていただきたい」と述べた。



夏季懇親会

### 平成22年度定期総会を開催

東北フォーム印刷工業会(笹氣幸緒会長)は平成22年定時総会を山形県寒河江市ホテルシンフォニーアネックスで行なった。総会には出席会員11社、委任状提出会員6社で定足数を満たして議事に入り、すべて原案通り可決承認を得て終了した。また、任期満了による役員改選では笹氣幸緒会長が退き、新会長

は佐久間信幸氏が、副会長には大門一平氏が選任された。

この総会に先立ち、株式会社太陽機械製作所山形工場の施設見学を、総会後には約20名が参加して懇親会を実施した。

また、翌日にはゴルフ親睦会を山形ゴルフ倶楽部で行った。



総会の模様



総会懇親会の模様

### 工場施設見学会

東北フォーム印刷工業会(佐久間信幸会長)は9月22日、工場施設見学会を実施し、会員19名が秋田県横手市にある(株)宮腰デジタルシステムズ(2005年に社名変更)を見学した。

同社は(株)ミヤコシのグループ工場で、多くの設計技術者を有するとともに、約95台に

のぼる様々な加工設備を持って、部品加工から組立・完成・納品までを行っているデジタル印刷機の専用工場。世界に誇るミヤコシの高性能インクジェット機は、この秋田の工場から生み出されて国内外に出荷されている。

工場内の施設見学に先立って、工場紹介のスライドを見ながら、概要について説明を受け、各種加工設備や出荷調整中のデジタル印刷機を見学した。

今回の見学は今後のフォーム印刷を考える上で大いに参考になり、役立つものとなった。



工場施設見学会の模様

## 平成22年度定期総会及び記念講演会

中部フォーム印刷工業会(松尾富正会長)は、5月25日午後3時より、メルパルクNAGAYA(名古屋市中区葵三)で、37人が出席され平成22年度定期総会を開催した。

総会では梶川順生理事が議事進行を行ない、役員改選が行われ、松尾会長が再任された。また、総会終了後、記念講演会が開かれ、法政大学大学院政策創造研究科の坂本光司教授が「日本でいちばん大切にしたい会社2」のテーマで講演した。

水谷春三副会長の開会の辞に続き、松尾会長が立ち出席者に感謝の意を表した後、次のように挨拶された。「内需比率の高いフォーム業界は依然として厳しい状況が続いており、リーマンショック後、製造業、特に自動車、電機が国の援助、経済政策で一部潤っていますが、それでも一昨年の数字と比較すると70%から90%の状況であり、また、日本の環境政策(二酸化炭素を2020年までに25%削減)が企業の海外移転を促す要因となり、これが内需中心のフォーム業界に影響を与える可能性がある。さらに、ここ何年かはDPSが順調に伸張してきましたが、DPSが未来永劫、救世主になり得ないという感じを持っている。まだ影響は未知数ながらも、電子書籍の普及、地デジの開始、ソニーとグーグルの提携などの動きが、印刷業界にとって大きな影響を及ぼす可能性がある」このような状況の中で「会員各社を含め知恵を出し合う」「お客様と一緒に新しいものを創造して行く」「インターネットにはない、人間の感性に訴えるものとして印刷媒体の進化」「環境ビジネス、ユニバーサルデザインに関連するビジネス」など具体例を挙げた。



講師  
坂本光司教授

挨拶の最後に、記念講演会の講師の坂本教授が説く企業のあり方にふれ、「単に利益を出せば良い会社ではなく、社会と一緒にになり、同化して進化できる企業、これが本来、企業として進むべき道ではないかと思っています」と結んだ。

この後、松尾会長を議長に選出し議案審議に入った。上程された次の四議案はいずれも承認され、福治理事の閉会の辞をもって終了した。

平成21年度事業報告承認の件/同収支決算報告承認の件・同監査報告・平成22・23年度役員承認の件/平成22年度事業計画(案)承認の件/同収支予算(案)承認の件

平成22・23年度役員は次のように決定した。

- 会長=松尾富正(小林クリエイト株)
- 副会長=水谷春三(富士印刷株)
- 理事=梶川順生((株)イセト) / 白尾浩志(トキワ印刷株) / 福治伸夫(トッパン・フォームズ株) / 伊藤民康(伊藤印刷株) / 伊藤則男(共同印刷株) / 杉山悟(小林クリエイト株) / 山中一((株)トヨトモ)
- 監事=加藤薫(アコーダー・ビジネス・フォーム株)
- 顧問=藤沼征義(小林クリエイト株)

(敬称略)

## 記念講演会

総会終了後、午後4時より会場一杯の85名が参加され記念講演会を開催し、法政大学大学院政策創造研究科の坂本光司教授が「日本でいちばん大切にしたい会社2」のテーマで講演した。

坂本教授は講演の中で、ベストセラーになった自著「日本でいちばん大切にしたい会社」に関連し、「この本に掲載することに耐えることのできる会社をどのくらい私が持っているかと言うと、今まで6300社ほど回りましたが、そのうちの残念ながら一割です。実はこれがこの国の問題点です」と前置きして、企業経営を次のように定義した。



記念講演会の模様

「企業経営とは、会社に関わりのある主な5人の幸せを実現するための活動のことを言う」そして「会社はその場所のことを言う」。その5人とは次の人だと強調した。①社員とその家族、②社外社員とその家族、③現在顧客・未来顧客、④地域住民、⑤株主。

これは幸せにする優先順位であり「社員第一主義を掲げた会社がおかしくなったことは、歴史上存在しないのです」「顧客第一主義を掲げて、おかしくなった会社は歴史上、山ほどあります」と述べ、「社員のモチベーションのレベルが好況になるか、不況になるかを決めるのです。皆さん方(経営者)の使命は、業績を高めることではありません。皆さん方の使命は全社員のモチベーションを高めることです。業績を高めるのは社員の仕事です」と経営のあるべき姿を説いた。

## 関西フォーム印刷工業会

## 平成22年度定期総会・講演会及び懇親会

関西フォーム印刷工業会では5月22日、堂島ホテルにおいて平成22年度定期総会を開催し、平成21年度事業報告と収支決算報告、平成22年度事業計画案及び収支予算案が原案通り可決承認された。また、任期満了による役員改選では中川博志会長が退き、新会長には清水順市氏が選任された。

引き続き「人とのコミュニケーションに役立つ関西よもやま話」というテーマで、ラジオ大阪チーフアナウンサーの原田年晴氏(昼

の番組を担当され、生放送終了後駆け付けられた)が、関西なりのコミュニケーションの取り方など、笑いの絶えない講演会でした。

懇親会では清水新会長より「厳しい今こそ関西らしさを発揮し、まとめ、どんどん交流し、チャレンジして行こう。そして前向きの行動あるのみ」との挨拶。ご講演いただいた原田氏が飛び入りで懇親会の司会を行なう等、最後までがやがや(関西らしく)と賑やかな会が続いた。



挨拶する清水新会長



講師 田原アナウンサー

九州フォーム印刷工業会

9 月度定例会及び勉強会を開催

九州フォーム印刷工業会(和田秀一朗会長)は9月16日、日本紙パルプ商事(株)九州支社会議室において9月度定例会及び勉強会を約30名(会員・特別会員)が参加して開催した。

定例会の冒頭和田会長は「今後は業界内での戦いよりも、異業種との競争が増えてくる。我々がお客様に求められる存在になるために、これからはBF業界の戦ってきた仲間として新しい商品、サービスを共創して、この会の存在価値を高めたい。そのためにも従来の思考の籬を取り外し、原点回帰の精神で取り組んで行こう」と挨拶された。例会では日本フォーム工連9月度理事会の内容報告及びPSDAレポートについての詳細補足報告を行った。

勉強会では人材派遣(株)清友(せいゆう)の

宮之原明子氏が「人の心をつかむコミュニケーション術」と題して講演された。

講演では「コミュニケーションの大事さは皆さんそれぞれに意識があると思います。しかし、レベルの差が大きくあるのが現実です。コミュニケーションの基本を理解し、繰り返し実践していくことが大事。これはどの業界でも関係なく、良く実践できればできる程、非常に効果は高まるでしょう」と、笑顔・言葉・挨拶の重要性について学んだ。また、話を聞くだけではなく、実習も含めた講演であったので、楽しくたくさんの方の気付きや、多くの学びがあった。

その後、コミュニケーションルームに場所を移して懇親会を開催し、勉強会の話で盛り上がった。



9 月度定例会の様様



勉強会の様様

国際委員会

■北米印刷事情レポート(2010年4月~6月)

米国郵便事業(USPS)の苦悩

米国郵政(USPS)は、ボストン・コンサルティング・グループ(BCG)に依頼し、2020年までの郵便取扱量を下記の通り予測しました。

取扱量がピークだった2006年度の2,130億通と比較すると:

- ⇒ 2020年度予測: 1,500億通 (▲30%)
- ⇒ 2020年度最悪のシナリオ: 1,200億通 (▲44%)

請求書関連のデジタル配信が進み、ビジネスメール(ファーストクラス・メール)比率が、2009年の50%から2020年には38%にまで落ち込む。

ファーストクラス・メールの落込みによる収入減は、2009年度に固定費の71%をカバーしていた配達収入が、2020年度には僅か21%しかカバーできなくなる。

現状維持をすることは、年間最高330億ドル(\$1=/100換算で約3兆3千億円)の赤字で、2020年度までに累計赤字が2,300億ドル(23兆円)となると予測しました。

USPSは既に、可能な限りの事業コスト削減に取り組んでいますが、景気が良かった時と同じ従業員福利厚生維持や、時代に合わない就業ルールに阻まれ、改革に時間がかかっています。コストの80%が人件費であり、コスト削減=失業者創出となり、議会としても、有権者の失業を容認する改革案を、簡単には承認する事ができません。

今後更に取扱量の減少が見込まれ、業務の自動化は急務です。そこで、インテリジェント・メール・バーコード(IMB)による業務フロー確立に期待がかかっています。利用者にもシステム対応の負担がかかりますが、郵便物総数の約90%は、10%の大手利用者ですので十分に新システム対応ができると考えられています。

フレキシブル・ビデオ・ディスプレイは新しいDMマーケティングツールとなるか!

郵便専門誌: Mail V.23 N.2より抜粋

紙のように薄くて柔軟性のあるビデオは、ダイレクトメールの将来の有望ツールとなるか、と題した特集が組まれました。

ここ5年程、柔軟性のある薄型ディスプレイやプリンテド・エレクトロニクスの基礎研究が進み、まるで紙のような形状のビデオが出来上がっている。

CBSテレビは、パプシと共同で、新番組の紹介用薄型ビデオを、業界紙Entertainment Weeklyに挟み込んで発送した。雑誌の中に、2.25インチの薄型ビデオを添付し、約40分のカラー画像を流す試みである。

この、バッテリーを使った薄型ビデオは、ロサンジェルスに本社をおくAmerichip社が開発したものだ。厚さ2.7ミリ、解像度320×240、バッテリーは65分から70分もつ。USBケーブルにつながぐことで、簡単に充電ができる。

BBCテレビによると、当薄型ビデオは、1枚当たり\$20(二千円)とされ、NYとロスの限定的な購読者に向けて発送が行われたという。

ディスプレイテクノロジー分野で期待されるもう一つの開発は、HPとアリゾナ州立大学のフレキシブル・ディスプレイ・センターで行われている共同研究である。こちらのディスプレイは、殆どプラスチック素材でできており、曲げることも可能である。持ち歩きもできて、消費電力も小さくて済む。デュボン・テイジンフィルムの素材の上に、一部E-インクの技術を用いてフィルム上にパターンを加工している。

類似の研究は、富士通、ソニー、シーメンスでも行われており、将来、郵便で配達されるDMの中に、ビデオ広告が入り込むことも夢ではなくなっている。

下記アドレスで製品を動画で紹介しています。  
<http://www.youtube.com/watch?v=UaMdYrNVLG0>

## マネージメントコラムの紹介

業界専門誌：American PRINTER 4月号 Dick Gorelick氏のコラムを要約

企業活動は、まさに、「紹介・口コミ」の時代になった。グーテンベルクの時代からあった「紹介・口コミ」が、ソーシャル・メディア(ブログやtwitter等、個人個人が情報を発信し形成していく)という新たなツールを得て、今まさに事業拡大の鍵を握っている。

読者の多くは、「フレデリック・リッチヘルドのNet Promoter Score」\*<sup>(注)</sup>をご存知だろう。一言でいえば、顧客忠誠度を計る手法である。顧客があなたのサービスに満足し、是非誰か別の人に紹介したい、と思ってくれるかどうかを、0~10段階で返答してもらう手法である。

フォーチュン500社の多くが、その手法を取り入れて、結果を従業員ボーナスに反映させている。

ジョージア州立大学のV. Kumar教授が、これに関連した興味深い統計を発表している。

金融及び通信業に従事する16,600人にアンケートを実施し、「紹介・口コミ」の実態を分析したものである。(表1)

表1

	金融	通信
知っている人に、この製品や会社を紹介しようと思いませんか？	68%	81%
実際に、この製品や会社を誰かに紹介しましたか？	33%	30%
紹介をした人の何%が顧客になりましたか？	14%	12%
新しく顧客になった人の何%が利益をもたらす顧客になりましたか？	11%	8%

\* (注)

書籍紹介 顧客ロイヤルティを知る「究極の質問」

著者：フレデリック・リッチヘルド

出版社：ランダムハウス講談社

価格：2,520円

これらの結果が、そのまま印刷業の営業活動に当てはまるかどうかは分からないが、きちんと計画された方法で、業務の一部として「紹介・口コミ」を利用しているかどうか、また、効果をあげているかどうかを検証してみる必要があるであろう。

昨今の事業環境においては、「紹介・口コミ」の重要性が、ソーシャル・メディアを通して益々高まり、また、広告活動にも盛んに取り入れられている。

重要なことは、トレンドに合わせて何をするかだけでなく、「顧客生涯価値」の定義が変わっている事に着目する事である。ごく最近まで、顧客生涯価値と言え、ある顧客が将来に亘ってもたらすであろう見込利益の指標であったけれども、新たな定義は、これに「紹介価値」を加えたものとなる。顧客忠誠度ははかるNet Promoter Scoreも超えたものなのである。

「既に重要な事として取り組んでいる」という読者企業が多いであろう。

しかしである。その取り組みは、組織的であるだろうか。系統だって実践し、PDCAを回しているだろうか。

多くの場合は、顧客が機会さえあれば紹介しても良いと思っている時でさえも、紹介の機会損失をしているケースが殆どではないだろうか。また、稚拙なアンケートでは、顧客の本心がくみ取りきれないばかりか、二度と商売をしたくないと思っても、アンケートには高得点をつける顧客が山ほどいることが見抜けない。アンケート結果を真摯に分析し、より良くしようという改善努力を続けなければ、効果が半減してしまうものなのである。

紹介・口コミの成功事例は大いに成果を認め、きちんと報いる仕組み作りも大切であろう。

## 欧州最大製紙企業ストラ・エンソー社幹部

### 取材記事

製紙業界情報誌Pulp & Paper International (PPI) より抜粋

製紙業界情報誌PPIに、ストラ・エンソー社(バ

ルセロナ) 幹部Juan Vila 氏への取材概要。(同社は欧州でNo.1の製紙企業で約30%のシェアを持ち、バイオマスへの取り組みでも知名度が高い)

北米もヨーロッパも、製紙業界はどちらも岐路に立たされている。紙の消費が落ち込み、大変困難な状況にあるのである。

しかし、同業者の閉鎖がもたらす追加需要が、本来我々が直面しなければならない「競争力の無さ」という問題から眼をそらす要因となっている。

例えば、あるサプライヤーの営業マネージャーはこう指摘する。欧州の製紙会社に設備を販売する際は、他の市場に比べて30%も販売価格が高いというのである。理由は、特別仕様の要求に伴う追加費用の為である。

技術者は、眼を覚まさなければならない。何でも知っているような態度を改めて、今まさに現実を直視しなければ、多くの人間が生活の糧を得ている会社そのものが崩壊してしまう。

製紙業界の技術者も管理者も、パラダイムを改めなければならない。最新鋭の設備を導入、運営することが仕事の目的ではない。財務的なリターンを生み、事業を存続する為の利益を作り出す事が仕事なのである。仕事の満足感、会社存続、業界存続の為に、自らがどんな貢献をしたかで勝ち取るものでなければならない。

## Andrew Tribute氏のIPEX2010速報概要

オンライン業界情報提供会社: WhatTheyThink.comより抜粋

IPEX 2010 展示会は、今までの展示会とは明らかに違い、とてもポジティブな雰囲気があった。注目が集まったのはデジタル印刷分野、特にインクジェット機であった。

### 連続紙インクジェット装置

2008年のDrupeでは、新しいプリンターの発表はあったものの実際に販売できる段階のものはいまなかったが、IPEXでは、それらが実用段階に入ったことを実感できた。

IPEX前にも、Oce社のJetstream1000のような、シングルエンジンの両面印刷機の発表があ

ったが、IPEXでは、その他の機種も複数紹介されていた。

まず、HP社のT200が注目をあびていた。これは、Oce社と同じ、シングルエンジンの両面印刷機で、モノクロかカラーの20インチ幅のプレスである。HP社のT300の技術を利用したもので、品質は連続インクジェットとしては最高級のHP社のT300と同等である。インクジェット用に最適化したコート紙への印刷サンプルは特に目を引いた。

(HP社のホームページにT300を使用した動画としてコンソリデティッド・グラフィクス社を紹介)

その他のエントリーレベル機としては、大日本スクリーン社のJet520CPがあった。Jet520の半分のスピードであるが、必要に応じてアップグレードが可能である。

InforPrint Solutions社も同様にInfo Print 5000を紹介した。

ハイスピードのインクジェット機では、Xerox社のデモが注目をあびていた。連続カラープレスで、ソリッドインキ技術の派生技術を用いたものである。これは、粒状の小球を、熱を与えたプリントヘッドに通すと液体化し、さらに紙に接触すると再度固形化するものである。この技術の利点は、通常の安価な基材にも直接プリント出来る事である。600dpi、毎分150mのデモを実施していた。販売価格は提示されておらず、おそらく2011年に市場に出てくるものと思われる。

その他主要なインクジェット印刷機は、Kodak社のProsper XL5000。デュアルエンジンで、毎分200mのフルカラー印刷機である。品質も良く、観客の目を引いていた。いつ市場に登場するかは、連続インクジェット・プリント・ヘッド「The Stream」の本格生産がいつ開始されるかにかかってくると思われる。

### 枚葉インクジェット装置

IPEXで、もっとも来訪者の期待に答えていた技術の一つはインクジェット枚葉プリンターである。

富士フィルム社のJet Press 720と大日本スクリーン社のTruepress JetSXが注目を浴びていた。しかしながら、残念なことに、設計が複雑な為か、スピードがDimatix社のプレス半分程度しかでない為、経済性の面で更に改善の余地があると思われた。

JetPress 720は、無理矢理オフセット印刷機のシャシーに載せた感があり、内部での紙の送り方の為か、毎分20mのスピードしかでない。

また、Truepress JetSXは、ハイレゾリューションにするとスピードが落ちる。

上記2社以外でもXeikon 8000や、香港のJadson QPress(トナー機)などがこれからの市場で人気が出てくるであろうと思われた。

## レーザープリンタ装置

IPEXでの注目はインクジェット機に集中したが、トナー機の開発も一部紹介されていた。ハイライトはXerox Color1000。Color Press800と合わせて高品質印刷を実現していた。クリアトナーの追加で、更なる機能充実も実現していた。

HP社は、HP Indigo 7500の紹介をしていた。ただ、これはDrupaで紹介された7000の改良機という位置付けである。色の実用性という観点から見た場合、HP Indigo 5500でライト・マゼンタとライト・シアンを使ったものとほぼ匹敵する品質だと思われる。改良点は運用上の安定性であろう。一つ新しい機能は、Vision Systemである。現在のところはあまり有効活用されていないが、将来、アプリケーションが充実するにつれて、ページチェック機能の強化などで有用性が高まるであろう。

Canon社は、image PRESS C7010VP及びC6010VPとC6010を紹介した。これらは、既存のimage PRESS 6000と7000の改善機である。プリントできる紙の種類などが広範囲になると同時に、生産効率や色品質が向上している。色品質は、X-RiteのilProcess Controlを採用して改善を実現している。

Xeikon社は、Xeikon 3500というラベルとパッケージ市場向けの機種を紹介すると同時に、

Xeikon 8000というハイスピード機を紹介していた。どちらも展示会中の成約率が上々であったとのことであった。

## その他インクジェットプリンタ装置

IPEXはそもそもラベル市場を狙った展示会ではないが、相当数のラベル製造機が紹介されていた。

インクジェットプリント技術のなかでは、Atlantic Zeiser社のモジュールが眼をひいた。もし特殊機を必要とする時は、同社へコンタクトすると良いかもしれない。

ニッチなところで活躍している企業としては、Domino社があげられる。京セラ製のプリントヘッドを使った機器は大変優れた性能を持つ。しかし、同社が市場のメジャープレーヤーになるにはもう少し時間がかかりそうだ。

IPEXで注目をあびた会社の一つに、イスラエルのScodix社がある。同社は、加工機を専門にした会社で、オフセット・デジタルどちらかで印刷されたシートにクリアインキを加工するシステムを紹介していた。加工後にエンボス等の特殊加工を施すものである。現在はB2対応機のみだが、将来はワイドフォーマット対応もすると思われる。

期待していなかった製品の一つ。これは、フランスの会社でNeryos社が紹介したIPN75。B3フォーマットの枚葉カラープリンターで、1,200dpi相当の品質でA4毎分300ページという高速プリンターである。2台を連動して、毎分600枚のプリントが可能としている。Oce社やDomino社が使用している京セラ製のプリントヘッドを使用したプレスであった。

(Neryos社IPN75パンフレット

[http://neryos.com/pdf/Neryos%20IPN75\\_E.pdf](http://neryos.com/pdf/Neryos%20IPN75_E.pdf))

## デジタル印刷を活かすプラットフォーム

業界誌: PRINT PROFESSIONAL 5月号より抜粋  
Web-2-Printの最新テクノロジーに関する業界レポートが特集され、同じく業界誌dps 5月号にも同様の記事を特集。米国のWeb-2-Printソフトウェア業界も、いよいよ次のステップへの成

長の兆しが見えてきた。

PageDNA社の提供するWeb-2-Printシステムは、オンライン即時見積システムや、ファイル・アップロード機能を備えたショートラン・デジタル印刷需要にも細かく対応したシステムである。また、使いやすさに高い定評がある。

大不況の最中、一時的な売上ダウンはあったものの、Web-2-Printポータルシステムは引き続き高い需要があり、堅実な成長を続けている。

同社は、2010年末には、システムのダブルバイト化にも着手し、本格的な成長を迎え入れようとしている。

最近強化しつつある機能はクロス・メディア機能で、一つのプラットフォームで、eメール、DM、PURLのコントロールが便利に出来るようにすることである。

Web-2-Printを導入する企業の中には、古くから使っている社内システムとの統合を希望する企業も多く、XMLへの統合化作業も数多く手がけてきた。

成長の強みは、競合他社に比べて比較的手ごろな価格でサービス提供をしている事も一要因である。印刷業においては、ネットインフラを利用しない企業が、これから更に厳しい時代を迎えるのではないだろうか。

PageDNA社ホームページ

<http://www.pagedna.com/>

同社は、印刷業向けWeb-2-Printのソフトウェア開発、ライセンス販売をしています。カリフォルニア州サンマテオ市(北シリコンバレー。

EFI社、オラクル社近く)の企業。

## Web-to-Printで成長を続けるVistaprint / Apple Store / InnerWorkings

今月は、Web-to-Printで成長する企業について業界の専門家からヒアリングした内容を一部紹介する。

下記表2の内、Vistaprintは独自開発のシステムを利用していますが、Apple StoreとInnerWorkingsは、同じ会社のシステムがバックで動いているはずだとの情報でした。

下記表2をみてみますと、Web-to-Printは、既にBtoB、BtoCのどちらでも成功しており、ユーザーとしては、安心・便利・低コスト、そしてサービス提供者としては、低コストで拡張可能な事がキーポイントになっている。

## Kindleの勢い止まらず!

オンライン業界情報提供会社: What They Think .comより抜粋(7月20日発表)

Amazon.comでは、Kindleの売れ行きが引き続き好調である。

Kindle本体が2年連続でベストセラーになっており、ギフトとしても良く利用されている。

価格を\$259から\$189に下げた事が販売に拍車をかけたようだ。

創設者兼CEOのMr. Jeff Bezos氏は、「書籍の売上も伸びている。その一方で、ついにKindle版の売上部数が書籍の部数を抜いた」とインタビューに答えている。

表2

	ターゲット	強み	ユーザー視点
Vistaprint	社員1-4人のスモールビジネス	名刺から販促品まで幅広く提供	サイトの安心感。具体的な提案が次から次にあり魅力的。発注も簡単。
Apple Store Print Service	iPhoneユーザー等	デジタル印刷によるアルバム・カレンダー・ハガキ印刷	アップルファンにとってのサイトの安心感。発注も簡単で便利。
Inner Workings	大手企業	一括受発注サービス	総合的なコストダウンが可。Web-to-Printで簡単に発注や予算管理ができる。

Amazon.comは書籍販売を15年間行ってきたが、Kindle版は販売開始後僅か33ヶ月でその月ベースの売上件数を越えたことになる。

Kindleストアでは、既に630,000タイトルを販売しており、最新のニューヨーク・タイムズのベスト・セラー110冊の内106タイトルが、Kindleストアで購入可能である。

また、その内の510,000タイトルは、一冊当たり\$9.99かそれ以下に価格設定されている。

上記に加え、1923年以前に出された著作権の切れた書籍1,800,000タイトルは、無料で読めるようになっている。

Kindle版の販売部数を2009年度と比較すると、2010年度上期に3倍になっており、勢いは全く衰えを見せない。

## ビジネスフォーラム業界はいずこへ (提案型／一括受注型か、さもなくば統廃合) 業界誌Print Solutionsより抜粋

Bush Integrated社 (PSDAメンバーの中規模の販売会社)は、1985年にBF販社として設立し、現在マーケティング・サービス・プロバイダー(MSP)として、コンサルティングを始め、バリアブルデータプリント、ウェブデザイン、e-コマース等々を手掛けている。

1985年当時、BF販売は順調に推移していた。ユーザーの要求で、マーケティング関連の製品・商品も数多く販売した。自然な流れで、直に、バリアブルデータを扱うようになり、デジタル印刷もこなすようになった。

更なる発展を目指して、2002年に販売促進関連の製品を取り扱う会社を買収した。

その後、競合他社のBF事業がシュリンクしていく中でも、順調に売り上げを伸ばすことができた。

しかし、BFを中心に販売していた我々が、簡単に業態変革を成し遂げた訳ではない。長くでこぼこの道を、少しずつ少しずつ前進してきたようなものである。

運が良かったのは、コア事業の40～50%がダメになってから変わろうとしたのではなく、

その随分まえから変革を開始したことである。

社内にも変化に抵抗する者がいたのは事実であるが、必死で変わらなければならないと思ってきた。

変わる為には、とにかく新しい事を学びながら走り続けなければならなかった。

セミナーや勉強会に積極的に参加し、学んだ者が他の者に教え、各自が積極的に学んだ。学んで、知識を共有し、実践で試し、助け合っていた。

しかし、多くのユーザーは、我々をBF販売員としてしか見てくれない時期があった。我々は、MSPとしてブランド化し、その位置付けに見合う力を付け、ユーザーにMSPとして認識してもらおうと努力し続けてきた。

成功の鍵は、ユーザーの中で社内に十分なリソースの無い中小企業に、我々が提供できる付加価値をどんどん増やし、実行し続けてきたことである。まるで、自社内のマーケティングメンバーのように、何から何までやらせていただく、というスタイルをとってきた。それが、自他共に認めるMSPになれた原点であると考えている。

我々に与えられた選択肢は、MSPとして提案活動をして一括受注を目指すか、さもなくば淘汰されるかの二者択一であったのではないかと考えている。

## 中国の印刷事情について

オンライン業界情報提供会社: What They Think.comより抜粋

業界のコメンテーター Andrew Tribute氏が、上海国際印刷フォーラムに招かれた際のコメント。同氏が中国をどのように解説しているかがとても興味深い。

今回が過去10年間で3回目の上海訪問であった。過去15年間に北京にも何度も足を運んでいるが、その両都市の発展ぶりには目を見張るものがある。

中国の印刷雑誌であるKeyin Print (中国印刷行业门户网站)に、月一回記事を投稿し頻繁に

足も運んでおり、中国の印刷事情には多少基礎知識があるつもりであるが、それでも急速な発展ぶりには驚かされる。

フォーラムの中で興味をひかれたところは、中国政府の要人がスピーチした内容についてである。中国では印刷事業を将来発展する事業として、今後の技術投資の対象としている、と語っていた。実際問題、他の国の殆どは、印刷は過去の事業であると位置付けているなかで、そのギャップの大きさに驚きに似た興味

をひかれた。

見逃してはならない重要な点は、中国の教育についてである。非常に質の高い労働力が、特にハイテク分野で多数輩出されている。また、若くて英語を話す人材が多数育っている点も見逃せない。これは、広く欧米を含む諸外国とのコミュニケーションが可能になる事である。

世界のどの国よりも、印刷技術とIT分野での高等教育が進んでいる国が中国である、という認識を新たにした。

## 中部フォーラム印刷工業会でセミナー

### ■「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会」

印刷業界はデジタルコンテンツやネットワーク社会への対応が話題となっており、新たなビジネスモデルの模索が始まっています。セミナーでは東京電機大学出版局局長で、日本書籍出版協会理事を務めながら、「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会」にも参加された植村八潮氏に、電子出版のみならず、従来メディアとネットワークメディアの融合による、クロスメディアにつ

いてなど、これからのデジタル社会への対応などを取り上げ、ご講演いただきます。

日 時 11月18日(木) 午後3時30分～午後5時  
会 場 愛知県産業労働センター  
「ウインクあいち」 1108会議室  
テーマ 「電子書籍時代のクロスメディアビジネス」  
講 師 植村 八潮 氏  
(東京電機大学出版局局長)

## ■財団法人印刷図書館主催文化講演会

テーマ：『江戸に学ぶ出版文化』  
講 師：江戸東京博物館館長 竹内 誠 氏

財団法人印刷図書館は、江戸学の第一人者として知られる「江戸東京博物館」(運営：(財)東京都歴史文化財団)の竹内誠館長をお招きして、12月6日(月)文化講演会を開催する。

物質的には必ずしも豊かではなかったかも知れないが、心は非常に豊かだった江戸時代の出版に関する史実やエピソードを紹介しながら、

当時の出版活動(心)を支えた印刷の業(モノづくり)の重要性を解き、江戸時代の意味を蘇らせ、それを心の時代である21世紀に活かすことができると、極めて示唆に富んだ内容を展開する。

日 時 2010年12月6日(月)  
午後2時～3時30分  
場 所 日本印刷会館2階 大会議室  
(東京都中央区新富1-16-8)  
参加費 5,000円

## ■JAGAT 印刷業界で唯一の白書『印刷白書2010』

社団法人日本印刷技術協会(略称: JAGAT)は、印刷業界で唯一の白書『印刷白書2010』を内容も価格もリニューアルして刊行いたしました。

印刷業界で唯一の白書として1993年以来毎年6月に発刊してきましたが、2010年版では、各種統計資料などの発表時期に合わせ、刊行時期を9月初旬に変更しました。その結果、統計資料(図版)を従来より50%以上増やし、内容も充実させることができました。

本書は、印刷メディア産業全体をマクロに捉えた動向を分析するとともに、各種統計資料を多数掲載し、トレンド動向把握に努めています。「産業構造から見た印刷産業」「産業連関表による印刷需要」など、今までにない視点による情報も新たに加えました。今後の印刷メディア産業がどのような方向性を選択するのか、社会、技術、産業全体、周辺産業という様々な観点からビジ

ョンを描き込み、戦略の提言を行っています。

印刷関連ならびに情報・メディア産業の経営者、経営企画・戦略、新規事業、営業・マーケティングの方、調査、研究に携わる方、産業・企業支援に携わる方、大学図書館・研究室・公共図書館などの蔵書として、幅広い用途にご利用いただけます。

監修・著: 社団法人日本印刷技術協会

発行: 社団法人日本印刷技術協会

定価: 9,600円(税込み) (JAGAT会員は特別割引価格 8,000円)

●書籍に関するお問合せ先

〒166-8539 東京都杉並区和田1-29-11

社団法人 日本印刷技術協会 書籍販売担当

TEL 03-3384-3112 FAX 03-3384-3216

URL <http://www.jagat.jp/content/view/539/220/>

## NPiフォーム NEXT-IJ



### 次世代を担うフルカラーインクジェットフォーム

近年、DPS事業におけるインクジェット印刷の高速かつフルカラー化は目を見張るものがあります。当社は高白色、高不透明、高平滑でご好評いただいております「NPiフォーム NEXT」をベースに高性能インクジェット適性(耐水性、高発色性)を付与し、新たにラインアップいたしました。

#### ■NPiフォーム NEXT-IJ 規格表

米坪(g/m <sup>2</sup> )	64.0	81.4	104.7	127.9	157.0
連量(kg)	55	70	90	110	135

※尚、本製品は受注生産となります。



NEXT-IJ 品質概要

日本製紙株式会社 情報・産業用紙営業本部 情報用紙一部

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-2-2 Tel. (03) 6665-1042

## 印刷技術の未来を担うパイオニア

MJP20F



フルカラーインクジェットプリンター

- ・最高解像度 600dpi×600dpi
- ・印字速度 200m/min
- ・最大印字幅 541mm

MD-Press



液体トナー方式電子写真プリンター

- ・解像度 1200dpi×1200dpi
- ・印字速度 100m/min
- ・最大印字幅 487mm



〒275-0016 千葉県習志野市津田沼1-13-5  
TEL: 047-493-3854 FAX: 047-493-3071  
URL: <http://www.miyakoshi.co.jp>

紙粉による印刷トラブルを解消!!

### KBDペーパークリーナー

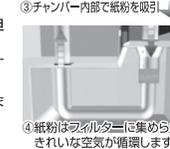
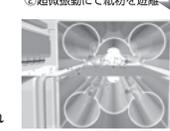
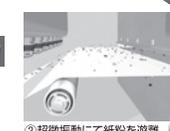
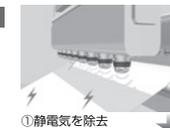
もう紙粉のトラブルに悩むことはありません!

#### 特長

- 素材に全く傷を付けず、強制的に素材(紙、フィルム)を超微振動させ、紙粉を強制的に遊離させて、効率よく吸引除去させます。
- 特殊ローラーを使用し、素材(紙、フィルム)に対し粘着したり、擦ることがありません。

#### 紙粉の除去が多様なメリットをもたらします!

1. 白ヌケが全く無くなった
2. 印刷機を止めることがないので...
  - 紙のロスの軽減
  - プランケット洗浄回数が1/3に
  - 刷版の洗浄が不要になった
 →以上により、印刷機稼働率が大幅にアップ
3. その他
  - 紙粉が飛散しないので、工場内の空気がきれいになった
  - メンテナンス不要によりオペレーターの負担が軽減
  - 色合いのチェックや見当ズレ等のみに注意すればよくなった
  - 洗浄液使用量が1/3に、またインキに紙粉がまじらないので、インキ廃棄量も削減
 →枯渇資源の削減につながる



## KOBUNDO

インキ練りローラー自動洗浄装置

### KBDローラーグリーンシステム

インキ洗浄時間の大幅短縮・安全、資源の節約を極める

販売実績記録を  
更新中!



インキカラーコントロールシステム

### KBDマイクロカラーSL

シール・ラベル小型印刷機専用システム

タッチパネル方式で  
使いやすくなって、  
新機能も追加!

インキカラーコントロールが  
グッと身近に。

ニュータイプ登場!!



印刷機材の総合商社  
株式会社 光文堂

<http://www.kobundo.co.jp>

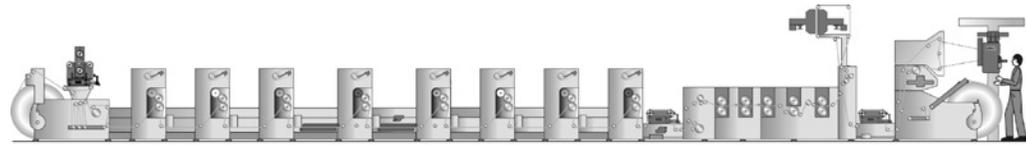
本店/〒460-0022 名古屋市中区金山二丁目15番18号 TEL 052(331)4111(代)  
支社/東京 支店/東北・静岡・大阪・北九州・福岡 営業所/北海道・青森・山形  
千葉・山梨・沼津・浜松・豊橋・岐阜・福井・金沢・富山・京都・山口・大分・熊本・沖縄

## ビジネスフォーム印刷用 BST自動見当装置システム

### プロセスカラーの見当合わせ時間の短縮に最適！

#### ■ 採用のメリット！！

- ・各オーダー及びオーダープロフィールのデータ管理！
- ・ロット量にかかわらず始かり時間の大幅短縮！
- ・オペレータの技量を選ばないシステム！
- ・手動操作に対して大幅な損紙の軽減！
- ・印刷スピードの大幅アップ！
- ・大幅な損紙の軽減



### BSTビーエスティ日本株式会社

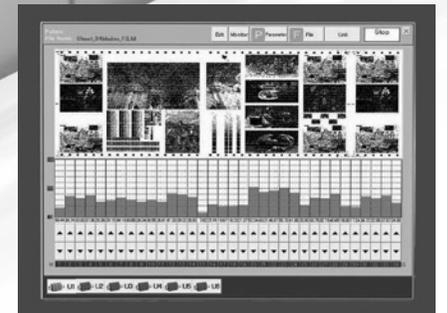
東京営業所 〒108-0074 東京都港区高輪3-25-27 アベニュー高輪411号室 TEL: 03-5798-7805 FAX: 03-5798-7806  
 本社 〒562-0035 大阪府箕面市船場東1-10-9 箕面プレーベルビル3階 TEL: 072-727-4704 FAX: 072-727-4914  
 大阪工場 〒594-0062 大阪府和泉市寺田町3-1-27 TEL: 0725-44-9930 FAX: 0725-44-9931

# コスト削減・高品質

## ビジネスフォーム印刷に最適!! 《環境配慮型システム》



▼IPCパネルコンピュータ  
(オペレーション画面)

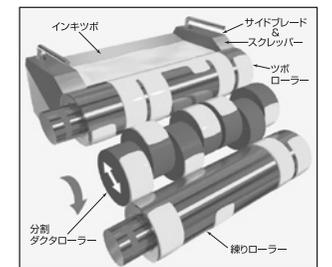


※刷版データとインキ量グラフを同時に表示。オペレーターが操作しやすくなっています。

### IPC <インキプリセットコントロール>

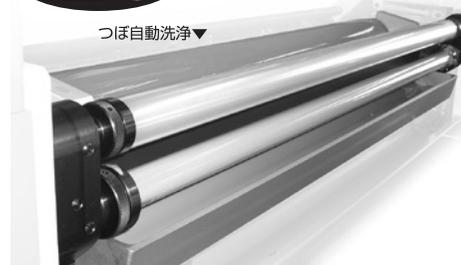
#### ★メリット

- ◎分割ダクタローラーは正確なインキ量供給により、色調、立ち上がりが向上。
- ◎低速から高速への速度追従機能により、濃度安定・ヤレ削減を実現。
- ◎極小絵柄でも色品質が安定し、インキ乳化を抑制。
- ◎つぼネジ調整一切不要→時間短縮・生産効率UP。



▲分割ダクタローラー機構  
(呼び出しローラー)

### AFC <オートファンテッククリーニング>



- インキつぼをカバーフィルムで覆い、自動フィルム巻取機能による洗浄システム。

#### ★メリット

- ◎12色機の場合、インキつぼ&つぼローラを同時に洗浄、約3分で洗浄完了。

IPC・AFC 国内外特許取得

※類似品にご注意下さい。

アイマー・プランニング株式会社  
〒612-8207 京都市伏見区横大路三栖山城屋敷町108

TEL.075-603-3878 FAX.075-603-3877  
URL http://www.imer.jp E-mail: sec@imer.jp



21世紀の情報記録を  
サポートします。

## 三菱情報記録用紙

三菱 NCR 和紙 三菱 IJ フォーム用紙 DF カラー M・G  
 ダイヤフォーム ダイヤメールシリーズ OCR 用紙 感熱紙

三菱製紙株式会社 洋紙事業部 情報・特殊紙営業部 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番2号 ☎03(3213)3732  
 大阪営業所 情報用紙グループ 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1丁目3番9号 ☎06(6271)4455

三菱製紙販売株式会社 名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-16-22 名古屋ダイヤビル ☎052(563)7561  
 本店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-4 ☎03(3566)2341 東北支店 〒983-0045 仙台市宮城野一丁目11番1号ダイヤミックビル ☎022(295)7710  
 大阪支店 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-3-9 ☎06(6271)2271 九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-6 綾杉ビル ☎092(771)1531

Economy & Ecology  
エコノミー & エコロジー



SCREEN

New

# Truepress Jet520

フルカラーバリアブル  
インクジェットプリンティングシステム

## エントリーモデル

### 導入コストを抑えた待望の シリーズ機登場！！

<特長>

- ◆ Truepress Jet520の品質機能を継承
- ◆ 高付加価値創出
- ◆ Eco設計による環境対応
- ◆ 業務内容に応じた前後処理装置の選択(OP)
- ◆ 全数・全面ビットマップ検査による品質保証(OP)
- ◆ 業務量に応じてバージョンアップ(OP)



●ダイレクトメール  
圧着はがき(先糊、後ニス対応) etc...



●帳票関係  
OCRドロップアウトカラー  
薄紙ノンカーボン用紙  
保険証券・約款 etc...

●パーソナル出版・小ロット印刷  
パーソナルカタログ・自費出版  
新聞・フリーペーパー etc...



株式会社メディアテクノロジー ジャパン

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-14 靖国九段南ビル  
VP営業統轄部 VP営業部  
TEL03(3237)3116 FAX03(3237)3203  
ホームページ <http://www.mtjn.co.jp/>

大日本スクリーン製造株式会社

メディア&プレジジョンテクノロジーカンパニー  
〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目  
ホームページ <http://www.screen.co.jp/>

フルカラーデジタル印刷機

# Xeikon 8000

ユーザーの声：

スピード  
品質  
稼働率

品質に厳しい流通業界のDMを6日間で600万ページ印刷するために、  
「この3つの基準で満足させてくれたのがXeikon 8000でした。」

パラジェット社 セールス・マーケティングマネージャー  
ペル ラルソン氏談



主な仕様  
印刷方式： 電子写真方式  
色数： 4C/4Cもしくは5C/5C  
印刷スピード： 最大260ppm(19.2mpm)  
解像度： 1200dpi  
対応用紙： 上質、コート、マット  
320mm~512mm幅  
40gsm~250gsm

ユーザー紹介

Parajett AB (パラジェット) 社  
<http://www.parajett.se>

1904年スウェーデンに設立した総合印刷会社。オフセット印刷、デジタル印刷を含むIT技術を駆使して、顧客毎に最適なコミュニケーションのためのソリューションを提供。

販売代理店

サカタインクス株式会社 事業開発推進本部

大阪本社 550-0002 大阪市西区江戸堀1-23-37  
TEL05-6447-5874 FAX06-6447-5839

東京本社 112-0004 東京文京区後楽1-4-25(日教館ビル)  
TEL03-5689-6674 FAX03-5689-6633

ホームページアドレス <http://www.inx.co.jp>